

December 2022
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

12

感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会もお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス

ス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合もございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。

- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用やこまめな手指の消毒等、ご来場のみなさまと同様に感染予防の対策を行います。

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。撮影前にスマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認ください。

※撮影はご自分からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください



スマートフォンのフラッシュを「オフ」にする方法例

PHILHARMONY

CONTENTS

DECEMBER 2022

12

7 [公演プログラム] **Aプログラム**

15 [公演プログラム] **Bプログラム**

19 [公演プログラム] **Cプログラム**

22 [シリーズ] **N響百年史** | 第33回 | 新交響楽団は誰のもの？

片山杜秀

26 2023年1月定期公演のプログラムについて
——公演企画担当者から

28 チケットのご案内

29 2022–23定期公演プログラム

31 特別公演／各地の公演

35 NHK交響楽団メンバー

36 特別支援・特別協力・賛助会員

40 曲目解説執筆者

41 みなさまの声をお聞かせください！

42 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO
Members

[Artist Profiles & Program Notes]

43 Program A

46 Program B

49 Program C

51 The Subscription Concerts Program 2022–23

53 役員等・団友

インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>



駆けぬける歓び

T H E
N E W



FORWARDISM.

bmw.co.jp

BMW カスタマー・インタラクション・センター 0120-269-437

FOR MORE
INFORMATION



世界をつなぐ、あたらしい空へ。



Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER



www.ana.co.jp



私と、響き合う。

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」

ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。

ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、コンサートホールの空間を満たしていく。

これこそ、ヤマハが追い求めてきた瞬間に他なりません。

人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、ピアニストとともに作りあげていくものだから。

Yamaha New CFX 誕生。

CFX

Yamaha Concert Grand Piano

ヤマハ New CFX コンサートツアー 2022

2022.12.15 (木)	福岡	福岡あいれふホール
2022.12.21 (水)	銀座	ヤマハ銀座店 ヤマハホール
2022.12.25 (日)	大阪	ザ・フェニックスホール
2023. 1. 21 (土)	広島	広島市南区民文化センターホール



ピアニスト/若林 顕



詳細はホームページをご覧ください

●ヤマハピアノ・電子ピアノ ホームページ <https://jp.yamaha.com/piano/>

●ヤマハピアノのお問い合わせは、お客様コミュニケーションセンター

ピアノご相談窓口 ☎0570-003-808

営業時間：月曜～金曜10:00～17:00 (祝日およびセンター指定休日を除く)

株式会社ヤマハミュージックジャパン



美しい国の、美しい一日がある。



PALACE HOTEL TOKYO

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

PROGRAM

A

第1971回

NHKホール

12/3 土 6:00pm

12/4 日 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ

メゾ・ソプラノ

藤村実穂子

コンサートマスター

伊藤亮太郎

ワーグナー

ウェーゼンドンクの5つの詩[21']

- I 天使
- II 止まれ!
- III 温室で
- IV 痛み
- V 夢

——休憩(20分)——

ブルックナー

交響曲 第2番 ハ短調(初稿/1872年)

[68']

- I アレグロ。かなり速く
- II スケルツォ:速く—トリオ:同じテンポで
- III アダージョ:厳かに、いくぶん動きをもって
- IV 終曲:より速く

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profiles

ファビオ・ルイージ (指揮)



© Yusaku Miyazaki

1959年、イタリア・ジェノヴァ生まれ。デンマーク国立交響楽団首席指揮者、ダラス交響楽団音楽監督を務める。N響とは2001年に初共演し、2022年9月首席指揮者に就任。就任記念公演ではヴェルディ、R. シュトラウス、ブラームスと得意のレパートリーを披露し、両者の将来に大きな期待を抱かせた。

これまでにメトロポリタン歌劇場首席指揮者、チューリヒ歌劇場音楽総監督、ウィーン交響楽団首席指揮者、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団および同歌劇場音楽総監督、MDR (中部ドイツ放送) 交響楽団芸術監督、スイス・ロマン管弦楽団音楽監督などを歴任。このほか、イタリアのマルティナ・フランカで行われるヴァッレ・ディートリア音楽祭音楽監督も務めている。また、フィラデルフィア管弦楽団、クリーヴランド管弦楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラに定期的に客演し、世界の主要オペラハウスにも登場している。録音には、ヴェルディ、ベッリーニ、シューマン、ベルリオーズ、ラフマニノフ、リムスキー・コルサコフ、マルタン、そしてオーストリア人作曲家フランツ・シュミットなどがある。また、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団とは数々のR. シュトラウスの交響詩を収録しているほか、ブルックナー《交響曲第9番》の解釈は高く評価されている。メトロポリタン歌劇場とのワーグナー《ジークフリート》《神々のたそがれ》の録音ではグラミー賞を受賞した。

藤村実穂子 (メゾ・ソプラノ)



© Rando Photography

日本を代表するメゾ・ソプラノのひとり。表現力豊かでよく通る美声と完璧な発声を誇り、特にワーグナーをはじめとするドイツ・オペラのレパートリーでは他の追随を許さない。2002年、主役級としては日本人で初めてバイロイト音楽祭にデビューし、以来9年連続出演し、ワーグナーの主要なメゾ・ソプラノの役柄を全て歌い切ったことは、金字塔である。ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場などに出演。オペラのみならずコンサートのソリストとしても引っ張りだこで、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団やベルリン・フィルハーモニー管弦楽団といった一流オーケストラの演奏会にも定期的に登場。故クラウディオ・アバド、クリスティアン・ティーレマン、サイモン・ラトル、アンドリス・ネルソンスら名指揮者の信頼も厚い。

東京藝術大学、同大学院、およびミュンヘン音楽大学大学院に学ぶ。2002年出光音楽賞、2003年芸術選奨文部科学大臣新人賞、2007年エクソンモービル音楽賞、2013年サントリー音楽賞を受賞。2014年紫綬褒章を受章。

[加藤浩子／音楽評論家]

1873年9月、アントン・ブルックナー(1824～1896)は、バイロイト祝祭劇場の建設に忙殺されているリヒャルト・ワーグナー(1813～1883)の自宅を訪れ、《交響曲第2番》《第3番》の献呈を受け容れてほしいと懇願し、巨匠は後者を採った。ワーグナーが目指そうとした音楽の未来は、まったく違うジャンル・手法をとったとはいえ、ブルックナーの音楽にも脈々と受け継がれている。ルイーギが選んだ両者の音楽を聴けるこのような機会にこそ、そんな理想に想いを馳せたいもの。

ワーグナー

ウェーゼンドンクの5つの詩

1849年にドレスデンでの革命騒ぎによって故国を追われたワーグナーは、10年以上におよぶ亡命生活を強いられるが、スイス・チューリヒで、絹織物商の妻マチルデ・ウェーゼンドンクと巡り会う。1857年、このマチルデと密やかな愛を育んでいたワーグナーは、その愛の証を、滅多に作曲することのなかったピアノ伴奏歌曲集として世に遺した。マチルデ自身が手がけた詞とワーグナーの音楽には、当時2人が傾倒していたショーペンハウアーの厭世的な感性、そして2人の間でのみ共有されていた符牒^{ふてう}が隠されていた。

たとえば、第3曲〈温室で〉。ヨーロッパの王侯貴族の宮廷には、南国から運ばれた柑橘類の樹木を寒さから守るための「オランジェリー」があった。手が届きそうで届かない憧れの南の国を、無理矢理にでも手許にとどめておきたいという、北方ヨーロッパ人にとってのはかない夢をかたちにしたもの。「虚ろ」な昼の光のありようを繰り返すこの詩からは、自分たちのいる場所はここではなく、本来あるべき場所へ赴きたいという、《トリスタンとイゾルデ》での恋人たちの嘆きに相通じる考えが見え隠れする。さらに、第5曲〈夢〉に見られる「宇宙の忘却と その記憶」という歌詞は、死の世界で「すべての忘却」を望む、《トリスタン》第3幕で吐露される主人公2人の望みとも重なり合っている。この音楽がそのまま楽劇の本篇に用いられたことで、2人の純愛の記憶は大作のなかに封印された。

なお、ワーグナーは第5曲〈夢〉を、小規模オーケストラのために管弦楽化した。指揮者フェリックス・モットルは、他の4曲を大規模なオーケストラのために、〈夢〉についてもワーグナーのそれを踏襲する形で管弦楽化しており、本日演奏されるのはこのモットル版である。

作曲年代	1857～1858年
初演	1862年7月30日 マインツ、エミリー・ゲナストのソプラノ独唱、ハンス・フォン・ビューローのピアノ独奏
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット1、ティンパニ1、弦楽、メゾ・ソプラノ・ソロ

交響曲 第2番 ハ短調 (初稿／1872年)

1861年、恩師ジモン・ゼヒターのもとで和声法・対位法を修めたブルックナーは、いよいよ本格的な創作活動へと歩みを進めることとなる。1863年の習作的な《交響曲へ短調》(いわゆる《第00番》)を皮切りに、1864年には《ミサ曲第1番》、1865～1866年の《交響曲第1番ハ短調》(第1稿)へと順調に進む。1866～1868年には《ミサ曲第2番》《ミサ曲第3番》が立て続けに続き、1868～1869年にはあらたなハ短調の交響曲を手がけ始めた。

後年、《第0番》と題されたこの交響曲の作曲は、1863年から1864年の間になされたものと考えられてきた。ただ、1868年以降、ウィーンへと移り住んだブルックナーが、この作品の総譜を書く際に、「1869年1月24日」という日付とともに「交響曲第2番」と記したという事実を鑑みれば、この作品が本来《第1番》のあとに続くものとして位置づけられていたことがわかる。だが結局、このハ短調交響曲は公開演奏・出版には至らず、第3番となるはずのハ短調交響曲を繰り上げて、《第2番》と名付けることになった。

1871～1872年に手がけられ、今回演奏されるこの《第2番》第1稿は、翌1873年、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によって試演されるが、作品が当時の基準ではあまりに長すぎることなどが問題となり、短縮した形で初演された。1876～1877年にかけて着手された第2稿(現在一般的に演奏される稿)では、第2楽章スケルツォ、第3楽章アンダンテの順序が入れ替えられ、その多くの部分が省略、短縮されている。

初めての交響曲の試みから10年間、さまざまな試行錯誤を経て、この《第2番》をもってようやく、ブルックナーにとつての「交響曲」の理想型が出来上がった、と言ってよいのだろう。第1楽章における、ヴァイオリンとヴィオラのトレモロからチェロが第1主題を提示する、いわゆる「ブルックナー開始」の確立、ソナタ形式のありようを大規模かつ複雑にする第2主題・第3主題の使用などはその典型である。第1稿でスケルツォが第2楽章とされたのは、おそらくベートーヴェン《第9》の楽章配置を参考にしたはず。また、この措置によって、緩徐楽章・第3楽章における《ミサ曲第3番》の〈ベネディクトゥス〉、第4楽章での〈キリエ〉の引用がつながることにもなる。とくに初期ブルックナー作品における宗教作品の影響については、交響曲受容に偏りがちな我々聴き手にとって、その全貌を知るための欠かせぬ知識となるはずである。

作曲年代	[第1稿・1872年稿] 1871～1872年 [第2稿・1877年稿] 1876～1877年
初演	[第1稿] 1873年10月26日 指揮:アントン・ブルックナー(ウィーン) [第2稿] 1894年11月25日 指揮:ハンス・リヒター(ウィーン)
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

ワグナー ウェーゼンドンクの5つの詩

歌詞対訳

詞◎マチルデ・ウェーゼンドンク

訳◎藤村実穂子

I. Der Engel

In der Kindheit frühen Tagen
hört' ich oft von Engeln sagen,
die des Himmels hehre Wonne
tauschen mit der Erden Sonne,
daß, wo bang ein Herz in Sorgen
schmachtet vor der Welt verborgen,
daß, wo still es will verbluten,
und vergehn in Tränenfluten,
daß, wo brünstig sein Gebet
einzig um Erlösung fleht,
da der Engel niederschwebt,
und es sanft gen Himmel hebt.
Ja, es stieg auch mir ein Engel nieder,
und auf leuchtendem Gefieder
führt er ferne jedem Schmerz,
meinen Geist nun, himmelwärts!

I. 天使

子供のころ
よく天使の話を聞いた、
天の崇高な喜びが、
地上の太陽とかわるのだという、
不安な心が
世界からの隠棲を渴望する時、
静かに流れる血が、
あふれる涙にかわる時、
深い祈りが
解放のみを嘆願するとき、
天使が舞い降り、
そっと天に引き上げるという。
私にも天使が舞い降りた、
光る羽が
あらゆる痛みから遠ざけようと、
私の心を今、天に向かわせている!

II. Stehe still!

Sausendes, brausendes Rad der Zeit,
Messer du der Ewigkeit;
Leuchtende Sphären im weiten All,
die ihr umringt der Weltenball;
Urewige Schöpfung, halte doch ein,
genug des Werdens, laß mich sein!

Halte an dich, zeugende Kraft,
Urgedanke, der ewig schafft!

II. 止まれ!

ざわめき荒れ狂う時の輪よ、
永遠を切る者よ、
広い宇宙で輝く天空よ、
世界球を取り巻くものよ、
永遠の天地創造よ、止まれ、
生成はもう十分だ、放っておいてくれ!

止まれ、生みの力、
永遠を創造する元想念よ!

Hemmet den Atem, stillt den Drang,
Schweiget nur eine Sekunde lang!
Schwellende Pulse, fesselt den Schlag;
Ende, des Wollens ew'ger Tag!

Daß in selig süßem Vergessen
ich mög' alle Wonnen ermessen!
Wenn Aug' in Auge wonnig trinken,
Seele ganz in Seele versinken;
Wesen in Wesen sich wiederfindet,
und alles Hoffen's Ende sich kündet,
die Lippe verstummt in staunendem
Schweigen,
keinen Wunsch mehr will das Inn're zeugen:
Erkennt der Mensch des Ew'gen Spur,
und lös't dein Rätsel, heil'ge Natur!

III. Im Treibhaus

Hochgewölbte Blätterkronen,
Baldachine von Smaragd,
Kinder ihr aus fernen Zonen,
saget mir, warum ihr klagt?
Schweigend neiget ihr die Zweige,
malet Zeichen in die Luft,
und der Leiden stummer Zeuge
steiget aufwärts süßer Duft.

Weit in sehndem Verlangen
breitet ihr die Arme aus
und umschlinget wahnbefangen
öde Leere nicht'gen Graus.

Wohl ich weiß es, arme Pflanze:
ein Geschicke teilen wir,
ob umstrahlt von Licht und Glanze,
unsre Heimat ist nicht hier!

Und wie froh die Sonne scheidet
von des Tages leerem Schein,
hüllet der, der wahrhaft leidet,

息を止め、衝動を静止し、
一秒でも黙ってくれ!
高まる脈動よ、鼓動を縛ってくれ、
終われ、永遠に続く日中の欲望よ!

甘い至福の忘却に、
全ての喜びを見極めたいのだ!
目と目が魅惑に呑み込まれ、
魂が魂に沈み、
存在どうしが再び見出し、
全ての希望が終わりを告げると、
唇は、驚愕し黙り込む、
内面はもう何の願望も生み出さない、
人は永遠の痕跡を認め、
聖なる自然はお前の謎を解く!

III. 温室で

湾曲した葉の冠、
エメラルド色の天蓋、
異国の子供たちよ、
言っておくれ、なぜ嘆くのか?
黙って枝を傾け、
空中にしるしを描く、
そして無言の証人、苦悩は
甘美な香りとなり昇っていく。

切望する欲求のうちに、
お前たちは腕を遠く広げ、
妄想に囚われ、荒れた空虚を
恐怖と逆の方に巻き付ける。

そう私は知っている、哀れな植物よ、
我々は運命を分かち合っている、
いくら光輝に包まれていても、
我々の故郷はここではない!

太陽が楽しげに
昼の空虚な光から別れる時、
真に苦しむ者は、

sich in Schweigens Dunkel ein.
 Stille wird's, ein säuselnd Weben
 Füllet bang den dunklen Raum:
 Schwere Tropfen seh' ich schweben
 an der Blätter grünem Saum.

沈黙の闇に身を包む、
 静かになる、織りなすざわめきが
 不安そうに暗い部屋を満たす、
 重いしずくが漂うのが見える
 緑の葉の端に。

IV. Schmerzen

Sonne, weinest jeden Abend
 Dir die schönen Augen rot,
 wenn im Meeresspiegel badend
 dich erreicht der frühe Tod;

doch ersteh'st in alter Pracht,
 Glorie der düstren Welt,
 Du am Morgen neu erwacht,
 wie ein stolzer Siegesheld!
 Ach, wie sollte ich da klagen,
 wie, mein Herz, so schwer dich sehn,
 muß die Sonne selbst verzagen,
 muß die Sonne untergehn?

Und gebietet Tod nur Leben,
 geben Schmerzen Wonnen nur:
 O wie dank' ich, daß gegeben
 solche Schmerzen mir Natur.

IV. 痛み

太陽よ、お前は毎夕
 目を赤くして泣くのか、
 海の鏡に浴し、
 早過ぎる死がお前を捕らえる時に。

しかし元の光彩に復活する、
 陰鬱^{いんうつ}な世界の栄光よ、
 お前は朝、新たに目覚める、
 誇り高き勝利の英雄のように！
 ああ、どう嘆けばよいのか、
 私の心よ、お前を見るのがつらいのだ、
 太陽もひるむのか、
 太陽も没むのか？

そして死が、生を産み、
 痛みは、喜びのみ与える、
 おお、いかに感謝しよう、自然よ、
 こんな痛みを与えてくれたことを。

V. Träume

Sag', welch' wunderbare Träume
 halten meinen Sinn umfassen,
 daß sie nicht wie leere Schäume
 Sind in ödes Nichts vergangen?
 Träume, die in jeder Stunde,
 Jedem Tage schöner blüh'n
 und mit ihrer Himmelskunde
 selig durch's Gemüte ziehn?
 Träume, die wie hehre Strahlen
 in die Seele sich versenken

V. 夢

言って、泡の様に消えない、
 どんな素敵な夢が、
 私の感覚を
 抱きしめるのか？
 夢、それは時毎、
 日毎に美しく咲き、
 天のお告げによって、
 至福のうちに心に沁みていくの？
 夢、まるで崇高な光の様に
 魂に沈み、

dort ein ewig Bild zu malen:
Allvergessen, Eingedenken!

Träume, wie wenn Frühlingssonne
aus dem Schnee die Blüten küßt,
daß zu nie geahnter Wonne
sie der neue Tag begrüßt,
daß sie wachsen, daß sie blühen,
träumend spenden ihren Duft,
sanft an deiner Brust verglühen
Und dann sinken in die Gruft.

そこで永遠の像を描く、
全ての忘却、そして記憶!

夢、それは春の太陽が
雪からのぞく花々に接吻し、
予期せぬ歓喜に
新しい日を迎え、
育ち、花咲き、
夢見がちに香りを放つこと、
そっとあなたの胸で灼熱^{しやくおつ}し、
そして墓へと沈む。

B

第1973回

サントリーホール

12/14 水 7:00pm

12/15 木 7:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ | プロフィールはp. 8

ピアノ

河村尚子

コンサートマスター

伊藤亮太郎

グリムカ

歌劇「ルスランとリユドミーラ」序曲[5']

ラフマニノフ

ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
[34']

I モデラート

II アダージョ・ソステヌート

III アレグロ・スケルツァンド

—— 休憩 (20分) ——

ドヴォルザーク

交響曲 第9番 ホ短調 作品95
「新世界から」[40']

I アダージョーアレグロ・モルト

II ラルゴ

III スケルツォ:モルト・ヴィヴァーチェ

IV アレグロ・コン・フォーコ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

B

河村尚子(ピアノ)



©Mitsuo Bogner

拠点とするドイツを中心にヨーロッパ各国、そして日本でもソロ、室内楽、協奏曲と幅広いジャンルで活躍を続ける。デビュー15周年を迎えた2019年にはリサイタル・シリーズ「ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ・プロジェクト」を展開し、3枚のアルバムもリリース。映画『蜜蜂と遠雷』では主人公・栄伝重夜のパiano演奏を担当し話題となった。2022年はシュベールの後期ソナタに取り組み、たえず自らの関心を深く掘り下げている。

オーケストラとの共演も多く、ウィーン交響楽団、モスクワ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団、バーミンガム市交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団などと共演。N響には2010年に初出演し、今回が6回目の共演となる。2006年ミュンヘン国際音楽コンクール第2位受賞、2007年クララ・ハスكيل国際ピアノ・コンクール優勝を経て国際的な注目を浴びる。出光音楽賞、日本シヨパン協会賞、第51回サントリー音楽賞など多数受賞。 Folkwang芸術大学教授、東京音楽大学特任講師として後進の指導にも熱意を注ぐ。

[飯田有抄／クラシック音楽ファシリテーター]

Program Notes | 堀 朋平

クラシック音楽が花ざかりをみせた19世紀は、いわゆる民族主義が盛りあがった時代でもある。それぞれの国が積みかさねてきた土壌から——ときに“自国と西欧”のぶつかりを見せつつ——音楽という植物が実をむすんだのである。本日は、ロシア民族主義の祖ともいわれるミハイル・格林カ(1804～1857)にはじまって、ちょうど世紀が終わる年に初演されたセルゲイ・ラフマニノフ(1873～1943)へとバトンがうつる。後半は、むしろインターナショナルの道へ進んだチェコの輝かしい名作をお楽しみいただく。

格林カ

歌劇「ルスランとリュドミーラ」序曲

ロシア音楽の展開はめまぐるしい。女帝エカテリーナ2世(在位1762～1796)のもとで西欧の路線に舵をきったロマノフ王朝もしだいに傾き、やがて自国ならではのテーマに注目する動きが芽おいてゆく。その流れにあって、格林カの自覚と功績はきわめて先駆的だった。多くの農奴を召しかかえる地主の家に生まれ、イタリア・ドイツで研鑽を積んだのちに帰国し、ロシアの伝統に根ざした力強いオペラを生み出してゆく。それはまさに当時のダイナミズムを凝縮したような活動であった。

本作は、文豪アレクサンドル・プーシキンによる物語にもとづく。魔法使いの罫をのり

こえて結ばれる題名役の男女をめぐるメルヘンオペラ。5幕からなる長大な舞台は、楽器法のうえでも視覚的にも、ロシアの風俗をありありと描きとる。序曲は、ロッシェニ風の勢いをもってエネルギーに舞いあがる。西欧ロマン派の語法によりつつも、物語をたくみに凝縮した5分間である。

作曲年代	1837～1842年12月
初演	1842年12月9日(旧暦11月27日)、サンクトペテルブルク、カルル・アリブレヒト指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽

ラフマニノフ

ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

時代はくだり、グリンカのおよそ70年後。あいかわらず自国と西欧がせめぎ合うなか、ラフマニノフが学んだのは「西欧」の路線をゆくモスクワ音楽院である。ピアノ科を卒業した翌1892年には作曲科も卒業、どちらも首席というエリートぶり。だが5年を経て世におくった大作《交響曲第1番》はひどい失敗に終わる。初演地サンクトペテルブルクが「反・西欧」派の本拠地だったという事情も大きかっただろう。すっかり自信を打ち砕かれたラフマニノフは、それから作品を発表することができなくなった。

音楽にはいつも催眠術が寄り添っている…… などというオカルトめくが、催眠療法^{メスマリズム}の創始者メスメル博士がモーツァルトのパトロンだった事実にはじまり、感じやすい作曲家には理屈をこえた力がしばしば降りてくるようだ。精神科医ニコライ・ダーリ博士(1860～1939)がモスクワ大学を卒業したのもそんな時代であり、博士の治療をラフマニノフはすすんで受けることにした。トラウマに悩んでいたとはいえ、オペラ指揮者・ピアニストとしては精力的に活躍していたから、創造力を解きはなつよう、座椅子に体を横たえる作曲家に暗示をかける治療だったという——「あなたのコンチェルトは素晴^{すば}らしいものになるはずです」と。かくして3年のスランプを乗り越えてラフマニノフは大喝采^{かつさい}をうる。深い感謝を込めて、本作はダーリ博士に献呈された。

重苦しい「ハ短調」で幕を開けた第1楽章が、異例のホ長調による——ベートーヴェン《ピアノ協奏曲第3番》と同じ響きだ——讃美歌ふうの第2楽章をへて、第3楽章では冒頭楽章のテーマをなぞりつつ「ハ長調」で高らかな勝利にいたる。そのすぐれて古典的なドラマが、成功の秘訣かもしれない。

作曲年代	1900年秋～1901年4月にかけて
初演	1901年11月9日(旧暦10月27日)モスクワ、アレクサンドル・ジロティ指揮、作曲家自身のピアノ
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、シンバル、大太鼓、弦楽、ピアノ・ソロ

交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」

ウィーン古典派をはぐくんだハプスブルク帝国も、やがて縮小の一途をたどる。これに伴って、支配下にあった隣国ハンガリーやチェコの民族意識が燃えあがり、スメタナ《わが祖国》(1882年初演)などの名作を生むことになる。アントニン・ドヴォルザーク(1841～1904)は、そのスメタナと同じボヘミア出身。それまでの形式や自然なメロディを基礎にしたため、保守派のブラームスに目をかけられ、30代前半にしてウィーンで地歩をきずく。

そんな作曲家に大きな転機が訪れた。ちょうど50歳を迎える1891年の春、ニューヨークのナショナル音楽院から、アメリカの語法を生かして音楽を盛り立ててほしい、と招かれたのである。葛藤^{かつとう}はあったものの、プラハ時代の25倍におよぶ俸給^{ひき}にも惹かれ、翌年に一家(妻と6人の子供)をつれて渡米する。「チェコの国民的^{ナショナル}な作曲家」は、ついに「インターナショナル」な有名人になりつつあった。

おりしも南北戦争後の「ゴールデン・エイジ」最後のかがやきに、国じゅう沸きたっていた時代。まもなくの大恐慌もあって在米は3年で終わるが、得たものは多かった。「アメリカの未来の音楽は、いわゆる黒人のメロディを基礎にすべきだと、私は考えるようになった」という文章が、まさに《新世界から》の筆がおかれる時期に有力紙をかざった(『ニューヨーク・ヘラルド』紙、1893年5月21日)。

思い出しておきたいのは、ドヴォルザークが、文学から音楽をたちあげる伝統にも浴していたことである。げんに第2・3楽章は、アメリカの詩人ロングフェローがインディアン^{インディアン}の英雄をうたった叙事詩『ハイアワサの歌』(1855)にインスピレーションをうけたものだ、と作曲家は語る。とくに《遠き山に日は落ちて》で知られる第2楽章は、叙事詩に描かれた風景——帰途につく農民、英雄の恋人ミネハハの病、その埋葬——を喚起させる。

第1楽章でしきりに鳴る「短長(タターン)」は、黒人音楽によく用いられるリズム。シンブルな3つの主題を、きわめて豊かな和声がいろどってゆく。その色とりどりの和声感覚によって、第2楽章の冒頭20秒ほどで、予想だにしない音世界がひらけてゆく(ラフマニノフの《ピアノ協奏曲第2番》の同じ箇所と似た演出だ)。第3楽章はユニークな2つの中間部を挟むスケルツォ。ひとつめの中間部のゆかいなテーマ(フルート&オーボエ)は、『ハイアワサの歌』に描かれる求婚歌。2つめの中間部では、弦楽器と管楽器の歌いかわしによって、鳥に変身したインディアンの鳴き声がユーモラスに響く。第4楽章では、いくつもの主題がまるで汽車のように駆けめぐる。この人は、誰にも負けない鉄道ファンだった。

作曲年代	1893年1月10日に着手、同年5月24日に完成
初演	1893年12月16日、ニューヨークのカーネギー・ホールにて、アントン・ザイドル指揮
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、シンバル、弦楽

C

第1972回

NHKホール

12/9 金 7:30pm

12/10 土 2:00pm

指揮

ファビオ・ルイージ | プロフィールはp.8

コンサートマスター

篠崎史紀

〔開演前の室内楽(Cプログラム限定)〕

9日(金)6:45pm〜/10日(土)1:15pm〜

ヴァイオリン:降旗貴雄、丹羽洋輔 ヴィオラ:坂口弦太郎 チェロ:村井 将
ベートーヴェン/弦楽四重奏曲 第3番 ニ長調 作品18-3—第1楽章

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

モーツァルト

交響曲 第36番 ハ長調 K. 425

「リンツ」[26']

- I アダージョー・アレグロ・スピリトoso
- II アンダンテ
- III メヌエット・トリオ
- IV プレスト

メンデルスゾーン

交響曲 第3番 イ短調 作品56

「スコットランド」[40']

- I アンダンテ・コン・モート
—アレグロ・ウン・ポーコ・アジタート
- II ヴィヴァーチェ・ノン・トロッポ
- III アダージョ
- IV アレグロ・ヴィヴァチッシモ

※この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは41ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

本日演奏される2作の交響曲は、いずれも作曲家が旅先で手がけたもの。それぞれ、ゆかりの地名で呼び親しまれている。《交響曲「リンツ」》はモーツァルトが数日で作曲したといわれるのに対し、《交響曲「スコットランド」》はメンデルスゾーンが着想から完成まで13年もの歳月を要したという違いがあるが、両曲とも、早熟の天才として知られる2人の作曲家の円熟期を切り開いた作品である。音楽的には、冒頭に極めて印象的な序奏が置かれている点が共通しており、そこに注目して聴き進めるのも面白いだろう。

モーツァルト

交響曲 第36番 ハ長調 K. 425「リンツ」

リンツは、ザルツブルクとウィーンのほぼ中間に位置する。両都市を行き来する際に必ず通過する地点であり、モーツァルト(1756～1791)にとって幼少期から身近な土地だった。《交響曲第36番ハ長調「リンツ」》は1783年、27歳の時の旅に関連する。モーツァルトは1781年にウィーンに移住し、翌年には結婚。父の反対を押し切って独り立ちしたばかりの頃である。1783年夏、彼は新妻コンスタンツェを伴い、ザルツブルクに2年ぶりに帰省した。3か月の滞在のあと、ウィーンへと向かう帰路、リンツに逗留した彼は急遽、演奏会を開くことになった。ザルツブルクの父にあてて彼は、「4日後に迫った演奏会のため、新しい交響曲を仕上げねばならず、大急ぎで書いている」旨を伝えている。

作品は、急・緩・舞踏・急の4つの楽章からなる。第1楽章の序奏は、複付点リズムが特徴的なアダージョ。モーツァルトが交響曲に序奏を付けたのはこれが初めてである。わずか19小節内で、ハ長調の明るく開放的な響きから半音階による深い陰影まで、表情が多様に変化する。続く主部は、軽快なソナタ形式。序奏の荘重な結びとコントラストを際立たせて、主要主題が弱音で生気に満ちて登場する。第2楽章は、牧歌的なへ長調、8分の6拍子、アンダンテの優雅な曲調。楽章が進むにつれ存在感を増す管打楽器群、とくに緩徐楽章には珍しいトランペット、ティンパニによって崇高な力が漲る。第3楽章は伝統的なメヌエット。中間部のトリオで小編成となり、オーボエとファゴットのソロの掛け合いが妙なる魅力を醸す。第4楽章は朗らかなプレスト。強弱のコントラストを生かしたソナタ形式による。大振りの推移主題が次々に転調する展開部がスケールの大きさを感じさせる。モーツァルトのウィーン時代の幕開けを輝かしく告げる交響曲である。

作曲年代	1783年10月30日のリンツ到着後に総譜を書き始め、11月3日に完成
初演	1783年11月4日、リンツの劇場にて。作曲家自身の指揮による
楽器編成	オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」

スコットランドは、ヨーロッパの北の辺境地である。生涯に10回、英国を訪れたメンデルスゾーン(1809～1847)にとっても、スコットランドは遠い異国であり、1829年夏、20歳の時にただ一度、訪れただけである。ロンドン・デビューを成功裡に終えたあと、夏の休暇旅行として約3週間を過ごした。《交響曲第3番イ短調「スコットランド」》は、この時に着想されたものである。7月26日にエディンバラに到着した彼は、30日にホルロード宮殿を観光し、その晩、ベルリンの家族にあてて次のような手紙を書いた。「深い黄昏のなか、私たちは今日、女王メアリーが人生を送り、愛を営んだ宮殿へ行きました。……思うに、私は今日そこで、私のスコットランド交響曲の始まりを見つけました」。

しかしその後、作曲ははかどらず、1830年代を通して模索が続けられた。1841年夏になってようやく本格的に作曲が進められ、1842年1月20日にベルリンにて総譜が書き上げられる。同年3月3日にライプツィヒのゲヴァントハウスにて行われた初演は、作曲者自身の指揮により大成功を収めた。この頃、メンデルスゾーンはゲヴァントハウス管弦楽団の音楽監督のみならず、プロイセン王の招聘を受けてベルリンでの職務も兼任し始めており、名実ともに音楽界の第一人者として地歩を固めていた。

作品は、急・舞踏・緩・急の4つの楽章からなる。第1楽章の序奏と第4楽章の後奏が通常より拡充され、交響曲全体の出発点および到達点となっているのが特徴である。メンデルスゾーンは、各楽章の主題を密に関連づけ、また、楽章間を途切れなく演奏するように指示することによって、大規模な作品全体の統一を図った。

第1楽章の63小節に及ぶ長大な序奏は、1829年の着想を大幅に拡大し、3部形式としたもの。旅先でのメランコリックな気分を鮮やかに封じ込めている。主部はソナタ形式による。主要主題は、序奏主題の輪郭を色濃く残した変容であり、副主題ともに歌うような性格に貫かれている。第2楽章は明るく軽快なスケルツォ。クラリネットで奏される主要主題が副主題と縦横無尽に組み合わせられ、戯れるように展開する。第3楽章は無言歌風の美しい旋律が特徴の長調部分と、葬送行進曲風の付点リズムが特徴の短調部分が交替しつつ進む。気高く壮大な緩徐楽章。第4楽章は激しく勇壮なフィナーレ。それまでの夢幻を絶ちきるかのように、鋭い付点リズムとスタッカートによる主要主題が奏される。副主題は再び序奏主題の変容である。大規模な後奏の主題もまた序奏主題の変容であり、交響曲の始まりからアーチを描くように、作品を堂々と締めくくる。

作曲年代	1829年7月30日夕刻、エディンバラのホルロード宮殿の観光中に着想。1841年夏、ベルリンにて総譜起稿、1842年1月20日に脱稿。1843年3月の初版まで何度か改訂
初演	1842年3月3日、ライプツィヒのゲヴァントハウスにて。作曲家自身の指揮による
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

N響百年史

第三十三回——新交響楽団は誰のもの？

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。定期公演を開始し、本誌『フィルハーモニー』の前身となる機関誌も創刊した新交響楽団。彼らはどこで練習していたのでしょうか——。

宮沢賢治、数寄屋橋でチェロを学ぶ

宮沢賢治は1926(大正15)年12月初頭、岩手県の花巻から何度目かの上京をした。30歳のときである。花巻農学校の教師を辞めて、自由人として生きようとしている。父親に面倒を見てもらいながら。詩集『春と修羅』と童話集『注文の多い料理店』を出版してはいるけれど、まだ地方の無名の一文学者というくらい存在である。東京には1か月ほどの滞在予定。神田錦町に部屋を借りた。何をしに来たのか。エスペラント語とタイピングを学び、足踏みオルガン(ハルモニウム)とチェロの腕を上げるためであった。あと調べものや観劇だろう。タイピスト学校にもだが、図書館や築地小劇場や歌舞伎座にも通った。映画や演奏会にも行ったのではないかな。

12月12日、賢治は、東京滞在のスポンサーである花巻の父、政次郎に手紙を書く。おのれがこれから力を尽くそうとしている文学の道は音楽と結びついていなければならない、自ら楽器を演奏しないと詩作もうまいかないという。そのために「いままで申しあげませんでした(中略)オルガンを毎日少しづつ練習して居りました。今度こっちへ来て先生を見附けて悪い処を直して貰ふつもりだったのです」。はて、賢治はどこで音楽の先生を見つけたのか。手紙は続く。「新交響楽協会へ私はそれらのことを習ひに行きました」。新交響楽協会とは、山田耕筰の日本交響楽協会をみんなで飛び出して船出してから何か月も経っていない、生まれだての新交響楽団のことであろう。賢治にはまだ日本交響楽協会という名称の印象が強く、新交響楽団も新交響楽協会と呼ばないとしっくりこなかったのではないかな。もしかすると東

京の多くの音楽ファンもそういう呼び方をしていたのかもしれない。

さて、先の引用に少しこたわる。手紙はオルガンだけの稽古^{けいこ}をしてもらうために新交響楽団に先生を探しに行ったようにも読めるのだが、でも「それらのことを習ひに」となっている。「それら」である。複数である。賢治はもう手に入れていたチェロを担いで上京したという。やはりオルガン

とチェロの先生を探して新交響楽団を訪ねたのであろう。12日の父への手紙にはオルガンの稽古^{けいこ}のことが綴^{つづ}られている。

「先生はわたくしに弾けと云ひわたくしは恐る恐る弾きました」。足踏みオルガンの譜面を16ページも「たうたう弾きました」。新交響楽団の誰が賢治に足踏みオルガンを教えていたかは謎であろう。とにかく弾いてみせたらどうなったか。「先生は全部それでいい」といってひどくほめてくれました」。賢治はすっかり自信を付けたようである。「もうこれで詩作は、著作は、全部わたくしの手のものです」。音楽が流れるように文学は生まれる。音楽を奏^{はかど}でられれば、詩作も捗^{はかど}る。賢治の理屈^{はかど}であろう。東京の新交響楽団でお墨付き^{すみつき}をもらったから、文学者としても自立してゆけると感激している。こうなると超理屈^{はかど}というべきかもしれない。賢治はこの成果を誇って父に訴える。「どうか遊び仕事だと思はないでください。遊び仕事に終るかどうかはこれからの正しい動機^{どうぎ}の固執と、あらゆる慾情^{よくじやう}の転向と、^う倦まない努力とが伴ふかどうかによって決まります。生意気だとは思はないでどうかこの向いた方へ向かせて進ませてく



宮沢賢治

ださい」。要するに、お金を出してくれということであろう。

この手紙から3日後、賢治はまた父宛に書状をしたためる。花巻で用事もできているので、早めに帰ってこないかと父に言われたらしく、その返事である。12月29日まではどうしても東京にいたい。そう綴る。「図書館の調べものもあちこちの個人授業も訪問もみなその積りで日程を組み間^ま代^{だい}授業料回数券などみなさう

なって居りましていま帰ってはみんな半端で大へんな損でありますから今年だけはどうか最初の予定の通りお許しをねがひます。それでも^{あせ}ふん焦^{あせ}って習ってゐるのであります」。

賢治は東京への一種の短期留学のあいだのタイム・テーブルを書き記す。「毎日図書館に午後二時頃まで居てそれから神田へ帰ってタイピスト学校^{すきやばし}数寄屋橋側の交響楽協会とまはって教はり午後五時に丸ビルの中の旭光社^{きよくこうしや}といふラヂオの事務所で工学士の先生からエスペラントを教はり、夜は帰って来て次の日の分をささひます。一時間も無効にしては居りません」。賢治は学費・稽古代を払って、そういう日々を送っていた。新交響楽団には午後に習いに行っていたようである。オルガンとチェロの両方なのであろう。

1926年12月。25日には大正天皇が崩御し、昭和へと改元される頃合い。賢治はずっと東京にいた。そのとき、前々月の10月に結成されたばかりの新交響楽団はどこを拠点にしていたか。賢治は「数寄屋橋側の交響楽協会」と書いている。そのとおりである。京橋区^{にしこんやちやう}西紺屋町に事務所を構えていた。練習場もす

ぐ傍^{そば}だった。賢治は練習場に通い、特定の団員と契約してレッスン料を支払い、足踏みオルガンとチェロの稽古に努めていたのであろう。新交響楽団のトロンボーン奏者でチェロも弾いた大津三郎の自宅で特訓を受けたとも伝えられる。とにかく最初期の新交響楽団の練習場は銀座であった。具体的にいえば楽器店の2階の広めの空間を間借りしていた。広いといっても何十人も入らない。管弦のフル・メンバーで稽古しようとする入りきらない。つまり名ばかりの練習場で機能を果たしきれない。数寄屋橋の近傍なのだから立地はよいのだが。そこですぐに新練習場が求められた。というか、賢治が稽古に訪ねた銀座のそれは、もともとあくまで仮の練習場ということであった。すると、正規の練習場はいつどうやってできたのか。

荏原に新練習所落成！

新交響楽団は、1927(昭和2)年1月から予約演奏会、つまり定期公演を始めるつもりだった。実際の開始は大正天皇崩御によって2月にずれこんだけれど。定期公演開始予定に合わせ、定期会員向けの機関誌も創刊された。『曲目と解説』という。即物的な名である。変遷^{へんせん}の末、『フィルハーモニー』に改まり、今日に続く。この雑誌は創刊当初から定期会員には無料で配られた。その『曲目と解説』に「楽聖ベートーヴェン百年祭」向けの特別号というものがある。1927年の4月から5月にかけて、ベートーヴェン没後100年を記念して、複数の定期公演と特別公演を組み合わせ、近衛秀麿^{この え ひでまろ}の十八番^{おはこ}である「楽聖」の交響曲群を連続演奏する趣向で、そのために『曲目と解説』も特別号を編んだ。ところが近衛はチフスで倒れ、

実際はヨーゼフ・ケーニヒが振ることになって、ケーニヒ^{おう}翁は連日の練習が過ぎて、すっかり憔悴^{しょうすい}したというのだが、その特別号のニュース欄にはこうある。

「私共の練習所も今の場所では狭くて身動きも出来ませんのですし郊外で不便かとは思いましたが目黒蒲田電鐵^{かまた でんてつ}沿線^{せんぞく}の洗足田園都市に新築中です。ベートーヴェン祭の九番の交響曲の練習に間に合わそうと思ひましたがすこしおくれて五月中旬に落成する豫定です。事務所もその方へ移ります」。続報が『曲目と解説』の6月号に載る。「洗足の新練習場はもう殆ど出来上りまして、數日中に移轉出来るようになりました。今度の練習場には少しばかりの客席の設備がありますから、練習も聞き度^たい御希望^{かいいん}の方には會員の方に限り、御便宜^{はか}を計り度いと思ひます」

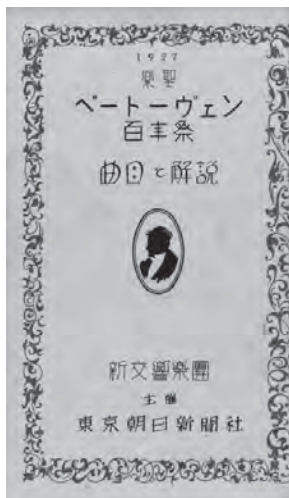
洗足の新練習場！住所は東京府荏原郡^{えばら なか}中延^{のぶ}になる。現在の品川区荏原だ。1923(大正12)年に、目黒蒲田電鉄株式会社が全通させ開業した目蒲線^{めかま}の洗足駅から徒歩15分ほどの200坪^{そろ}の土地に、練習場、事務所、談話室などを揃えた洋館が新築された。地鎮祭が行われたのは、1926年12月19日。宮沢賢治が東京に滞在して数寄屋橋に出入りしていた時期にもなる。新しいオーケストラを軌道に乗せるためには余裕のある練習場を占有することが絶対不可欠。そのために急遽、土地が購入され、建築が始まった。半年弱でできあがった。

取り仕切ったのは誰だろうか。オーケストラの後見役といえる日本放送協会は、新交響楽団を事実上の専属楽団として多くの番組に出演させ、補助金・賛助金も投入して、楽壇の回転資金のかなりを担っているが、にわかに事務所や練習所を建てるといわれても、そのための予算までは組んでいなかった。オーケスト

ラのメンバーたちはどうか。良家の出身で、道楽が高じて演奏家になっている者もいるが、そうでない者も多い。お金を出し合って練習所を新築する余裕はない。楽団員たちは概して生きるのに苦勞していた。練習場に宮沢賢治のような地方の素人の音楽愛好家を入れて、レッスンしてあげているのもそのせいだ。オーケストラの練習は午前中に済ませ、午後は映画館やホテルやレコード会社のスタジオや個人レッスンで稼ぐ。そうして安月給を補う。団員たちの普通の暮らしであった。

すると荏原の練習場の建設資金の出元は？ やはり指揮者の近衛秀麿である。といっても近衛個人の稼ぎでは無理だ。結局、近衛家である。秀麿が兄の文麿を説得した。「どうか遊び仕事だと思わないでください。遊び仕事に終わるかどうかはこれからの正しい動機の固執」によって決まる。宮

沢賢治が父の宮沢政次郎を口説くために用いた台詞とまったく同様の論法で、賢治の2つ年下になる近衛秀麿は兄に訴えた。オーケストラの将来は練習所の有無で決まる！ 新楽団を潰さないで続けられるかはこの初動の時期に練習所を新築できるか否かにかかっている！



近衛家の当主は愛する弟への資金提供を認めた。欧州留学から何から、そうやってみんな認めて、弟の勝手にさせたのが近衛文麿である。新しく鉄道が敷かれ、ベッドタウンとなってゆく荏原に、近衛家のおかげで土地が買え、練習場は建った。新交響楽団は音楽的に近衛秀麿が率いているけれど、近衛家のオーケストラでは決してない。でも、実際は近衛の私財が投じられたからこそ形になっていた面が大きい。道楽者万歳！

しかし、このことがオーケストラの運営をめぐる、のちの混乱のもとにもなるのだから。

1927年の「楽聖ベートーヴェン百年祭」向けの特別号(上)と、『曲目と解説』(のちの『フィルハーモニー』) 1927年6月号(下)

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファンズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

2023年1月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

トゥガン・ソヒエフがポリショイとトゥールーズのポストを辞任するという今年春のニュースは、大きな衝撃をもって迎えられた。祖国ロシアのウクライナ侵攻を受けての、苦渋の決断だった。直後に本人から「明るい未来を祈りたい」という前向きなメッセージが届いた。私たちはこれからも、彼との共演を継続する。3年ぶりの来日が待ち遠しい。

「闘争から勝利」へのアンチテーゼ——
ベートーヴェン&ブラームス 別の一面を聴く

〔Aプログラム〕のベートーヴェン《交響曲第4番》は、《英雄》や《運命》に比べると革新的ではないイメージがある。しかし元々、力瘤ちからこぶの入った構成を目指したのではなく、即興性を交響曲に持ち込もうという、別の実験精神の現れと見ることもできよう。曖昧模糊あいまいもことした導入部はのちの《第9》を予感させるし、曲全体の運びには、少し前の《幻想曲風ピアノ・ソナタ》に通じる伸びやかさがある。ロマン派を先取りするような木管やティンパニのソロ

も特徴的で、シューマンが高く評価したのも^{うなず}頷ける。クライバーやアーノンクールといった名指揮者が《第4番》を好んだが、ソヒエフもそのひとり。風通しのよい、推進力のある音楽作りがこの曲に向くのだろう。

前半は同じ変ロ長調のブラームス《ピアノ協奏曲第2番》。重厚な第1・第2楽章と打って変わって、後半はトランペットとティンパニが沈黙し、室内楽的な趣になる。これもやはり“闘争から勝利へ”のアンチテーゼあんちてーぜというべきか。ホルンやチェロのソロなど、斬新な仕掛けにも富んでいる。理性と情熱のバランスが取れたハオチェン・チャンのピアノに期待したい。

ロシアの冬を思い起こさせる
ラフマニノフとチャイコフスキーの初期の傑作

〔Cプログラム〕の《交響詩「岩」》は、タイトルだけ聞くと断崖絶壁の光景を思い浮かべるが、旅の宿で出会った中年男と若い女性の束の間の交流を描いた、チャーホフの短編小説がもとになっている。旅立つ女を見送る

男に雪が積もり、岩のように見えるという訳である。若きラフマニノフの作品をチャイコフスキーが激賞し、初演の指揮を約束したが、彼は間もなく世を去ってしまう。本来は同じ年に書かれた《悲愴交響曲》を組み合わせたかったが、《悲愴》の演奏に特別な思いを抱くソヒエフは、首を縦に振らなかった。またいつか別の機会を探りたい。

ラフマニノフの《岩》同様、《交響曲第1番「冬の日の幻想」》は、チャイコフスキー初期の力作である。弦のトレモロの上で舞い踊るフルートと、大地のような低音のコントラスト。民謡風のメロディ。一聴してロシアの冬を思わせる、2つの作品の共通項は多い。チャイコフスキーが《岩》を絶賛した理由には、自作へのノスタルジーもあったのかも知れない。

ソヒエフが20世紀の名作で
微細に描き分ける“あわい”に耳を傾ける

「Bプログラム」のドビュッシー《海》とラヴェル《ダフニスとクロエ》は、ソヒエフが繰り返し取り上げているレパートリーである。どちらの曲にも「夜明け」をタイトルに含む楽章が出てくるのは象徴的だが、刻々と移りゆく音色のグラデーション、その“あわい”を微細に描き分けることに長けた、ソヒエフの真骨頂が聴かれるだろう。

ベルリン・フィルの第1首席奏者、アミハイ・グロスが弾くのは、バルトークがスケッチだけ残して亡くなった、遺作の《ヴィオラ協奏曲》。ヴァイオリンとチェロの“あわい”にあって、明確に定義づけられないこの楽器の音質に、グロスは強く惹かれるという。

〔西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹〕

A

1/14 土
6:00pm
1/15 日
2:00pm

NHKホール

ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83
ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

指揮：トゥガン・ソヒエフ
ピアノ：ハオチェン・チャン



B

1/25 水
7:00pm
1/26 木
7:00pm

サントリーホール

バルトーク／ヴィオラ協奏曲（シェリイ版）
ラヴェル／「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番
ドビュッシー／交響詩「海」

指揮：トゥガン・ソヒエフ
ヴィオラ：アミハイ・グロス



C

1/20 金
7:30pm
1/21 土
2:00pm

NHKホール

ラフマニノフ／幻想曲「岩」作品7
チャイコフスキー／
交響曲 第1番 短調 作品13「冬の日の幻想」

指揮：トゥガン・ソヒエフ



チケットのご案内(定期公演 2022年9月～2023年6月)

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	12・1・2月	発売中
	4・5・6月	2023年3月1日[水](定期会員先行)／3月5日[日](一般)

※発売予定時期は変更となる場合があります

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

※ A-CプログラムはNHKホール改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します

※ A-2とC-2の開演時刻は2:00pm、C-1の開演時刻は7:30pmとさせていただきます。A-1(6:00pm)、B-1、B-2(7:00pm)の開演時刻に変更はございません

発売開始日	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	販売終了
	シーズン会員券(Winter)	発売中
	シーズン会員券(Spring)	2023年2月14日[火](定期会員先行)／2023年2月17日[金](一般)

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [A・Bプログラム]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥8,100 (¥900)
年間会員券(9回) [Cプログラム]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥7,200 (¥800)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [Aプログラム]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,300 (¥1,100)
シーズン会員券(3回) [Cプログラム]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,000 (¥1,000)

※()内は1公演あたりの単価

WEBセレクト3+

Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

※お取り扱いにはWEBチケットN響のみとなります

※1回券の一般発売日からご利用いただけます

※割引の併用はできません

※定期会員の方は1回券の会員割引(約10%割引)をご利用ください

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。2022-23シーズンからユースチケット1回券は、すべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただきます

お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

営業時間：11:00am～5:00pm
定休日：土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

- 主催公演開催日は曜日に問わず11:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は11:00am～3:00pmの営業
- 感染症予防対策のため電話受付のみの営業

WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhkso.or.jp>

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

Please follow us on     

2022-23定期公演プログラム

2022 12	A	第1971回 12/3 土 6:00pm 12/4 日 2:00pm NHKホール	ルイージ&藤村のコンビで味わう19世紀ドイツ・ロマンティズムの真髄 ワーグナー／ウェーゼンドンクの5つの詩 ブルックナー／交響曲 第2番 ハ短調(初稿/1872年) 指揮:ファビオ・ルイージ メゾ・ソプラノ:藤村実穂子	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥6,400 D ¥4,400 E ¥2,800	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800 E ¥1,400
		第1973回 12/14 水 7:00pm 12/15 木 7:00pm サントリーホール	ルイージの指揮、河村尚子のピアノで“究極”の名曲を堪能する グリンカ／歌劇「ルスランとリジドミラ」序曲 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18 ドヴォルザーク／交響曲 第9番 ホ短調 作品95「新世界から」 指揮:ファビオ・ルイージ ピアノ:河村尚子	一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥6,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
		第1972回 12/9 金 7:30pm 12/10 土 2:00pm NHKホール	モーツァルトの輝き、メンデルスゾーンの哀愁 ルイージが描き出す鮮烈なコントラスト モーツァルト／交響曲 第36番 ハ長調 K. 425「リンツ」 メンデルスゾーン／交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」 指揮:ファビオ・ルイージ	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
2023 01	A	第1974回 1/14 土 6:00pm 1/15 日 2:00pm NHKホール	名匠がブラームスとベートーヴェンの傑作を携え3年ぶりに登場! ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83 ベートーヴェン／交響曲 第4番 変ロ長調 作品60 指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:ハオチェン・チャン	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
		第1976回 1/25 水 7:00pm 1/26 木 7:00pm サントリーホール	色彩の魔術師ソヒエフがセレクトする20世紀の名品たち バルトーク／ヴァイオラ協奏曲(シェリイ版) ラヴェル／「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番 ドビュッシー／交響詩「海」 指揮:トゥガン・ソヒエフ ヴァイオラ:アミハイ・グロス	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500
		第1975回 1/20 金 7:30pm 1/21 土 2:00pm NHKホール	名匠が贈るラフマニノフ、チャイコフスキーの初期の名作 ラフマニノフ／幻想曲「岩」作品7 チャイコフスキー／交響曲 第1番 ト短調 作品13「冬の日の幻想」 指揮:トゥガン・ソヒエフ	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
2023 02	A	第1977回 2/4 土 6:00pm 2/5 日 2:00pm NHKホール	父・尚忠とその友人たち 尾高忠明 こだわりの選曲が現代人の魂に響く 尾高尚忠／チェロ協奏曲 イ短調 作品20 バヌフニク／カティンの墓碑銘 ルトスワフスキ／管弦楽のための協奏曲 指揮:尾高忠明 チェロ:宮田 大	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
	B	第1979回 2/15 水 7:00pm 2/16 木 7:00pm サントリーホール	大器フルシャ、母国チェコの愛国的作品とブラームスの名作を携えN響再登場 ドヴォルザーク／序曲「フス教徒」作品67 シマノフスキ／交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」* ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98 指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ピョートル・アンデルシェフスキ* 2/19日 NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)	一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500
	C	第1978回 2/10 金 7:30pm 2/11 土 祝 2:00pm NHKホール	愛、怒り、高揚、憧れ、幻想 — ダンスに込められた心の機微をフルシャが浮き上がらせる バーンスタイン／「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス ラフマニノフ／交響的舞曲 作品45 指揮:ヤクブ・フルシャ	一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800

Cプログラムについて

- ・休憩のない、60〜80分程度の公演となります。
- ・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催(1日目:6:45pm〜/2日目:1:15pm〜)。

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール	
開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm	
2023 04	A	第1980回 4/15(土) 6:00pm 4/16(日) 2:00pm	バーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描くアルプスの壮大なパノラマ R. シュトラウス／「ヨゼフの伝説」から交響的断章 R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800 E ¥2,800 E ¥1,400	
		NHKホール	指揮:バーヴォ・ヤルヴィ		
	B	第1982回 4/26(水) 7:00pm 4/27(木) 7:00pm	シベリウス、ラフマニノフ、チャイコフスキー バーヴォ・ヤルヴィの十八番でその至芸を聴く シベリウス／交響曲 第4番 イ短調 作品63 ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲 作品43* チャイコフスキー／幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」作品32	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
2023 05		サントリーホール	指揮:バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:マリー・アンジュ・グッチ*		
	C	第1981回 4/21(金) 7:30pm 4/22(土) 2:00pm	小粒でもビリリと辛い! バーヴォ・ヤルヴィが贈るお洒落で小粋なフランス作品集 ルーセル／弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52 ブーランク／シンフォニエッタ イペール／室内管弦楽のためのディヴェルティスマン	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
		NHKホール	指揮:バーヴォ・ヤルヴィ		
2023 06	A	第1983回 5/13(土) 6:00pm 5/14(日) 2:00pm	下野竜也が見つめる「折り」と「奇跡」そしてライフワークのドヴォルザーク ラフマニノフ／歌曲集 作品34 —「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」 グバイドゥーリナ／オッフエルトリウム* ドヴォルザーク／交響曲 第7番 二短調 作品70	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000	
		NHKホール	指揮:下野竜也 ヴァイオリン:バイバ・スクリデ*		
	B	第1985回 5/24(水) 7:00pm 5/25(木) 7:00pm	新緑の季節 清々しいホルンの響きとルイーザが誘う(田園) ハイドン／交響曲 第82番 ハ長調 Hob. I-82「くま」 モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447 ベートーヴェン／交響曲 第6番 ヘ長調 作品68「田園」	一般 ユースチケット S ¥9,800 S ¥4,500 A ¥8,400 A ¥4,000 B ¥6,700 B ¥3,300 C ¥5,400 C ¥2,500 D ¥4,400 D ¥1,800	
2023 06		サントリーホール	指揮:ファビオ・ルイーザ ホルン:福川伸陽		
	C	第1984回 5/19(金) 7:30pm 5/20(土) 2:00pm	19世紀末のフランスを象徴する交響楽の名品をルイーザの指揮で聴く サン・サーンス／ピアノ協奏曲 第5番 ヘ長調 作品103「エジプト風」 フランク／交響曲 二短調	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
		NHKホール	指揮:ファビオ・ルイーザ ピアノ:バスカル・ロジェ		
2023 06	A	第1986回 6/10(土) 6:00pm 6/11(日) 2:00pm	「カゼッラ・リバイバル」の仕掛人ノセダが贈る傑作歌劇のエッセンス プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第2番 短調 作品16 カゼッラ／歌劇「蛇女」からの交響的断章[日本初演]	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500 E ¥2,000 E ¥1,000	
		NHKホール	指揮:ジャンナンドレア・ノセダ ピアノ:ペフゾド・アブドゥラ・モフ* ★当初発表の出演者から変更となりました。		
	B	第1988回 6/21(水) 7:00pm 6/22(木) 7:00pm	ノセダがメモリアルイヤーに問うラフマニノフ初期作の真価 バッハ(レスピーギ編)／3つのコラール レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲* ラフマニノフ／交響曲 第1番 二短調 作品13	一般 ユースチケット S ¥8,900 S ¥4,000 A ¥7,400 A ¥3,500 B ¥5,800 B ¥2,800 C ¥4,700 C ¥2,100 D ¥3,700 D ¥1,500	
2023 06		サントリーホール	指揮:ジャンナンドレア・ノセダ ヴァイオリン:庄司紗矢香*		
	C	第1987回 6/16(金) 7:30pm 6/17(土) 2:00pm	満を持してN響で初披露 ノセダ得意のショスタコーヴィチ(第8番) ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 ハ短調 作品65	一般 ユースチケット S ¥7,400 S ¥3,500 A ¥6,500 A ¥3,000 B ¥5,200 B ¥2,400 C ¥4,200 C ¥1,900 D ¥3,200 D ¥1,400 E ¥1,600 E ¥800	
		NHKホール	指揮:ジャンナンドレア・ノセダ		(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

特別公演

12/21 水 7:00pm
12/22 木 7:00pm
12/24 土 2:00pm
12/25 日 2:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

指揮:井上道義 ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー メゾ・ソプラノ:藤村実穂子 テノール:ベンヤミン・ブルンス
バス:マシュー・ローズ 合唱:新国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ
ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,000円 C席6,500円 D席4,500円
ユースチケット(25歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,500円 C席3,250円 D席2,250円

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(22日公演のみ)
協賛:みずほ証券株式会社／はごろもフーズ株式会社／JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社／株式会社明電舎

12/27 火 7:00pm | かんぽ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:井上道義 オルガン:勝山雅世* ソリスト・合唱はベートーヴェン「第9」演奏会と同じ
ダカン／ノエル集 作品2ー第10曲「グランジュとデュオ」ト長調* ラインケン／フーガト短調*
バッハ／前奏曲とフーガ ハ長調 BWV545*
ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,500円 A席14,500円 B席11,500円 C席8,000円
ユースチケット(25歳以下) | S席8,750円 A席7,250円 B席5,750円 C席4,000円

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぽ生命保険

第9チケット発売中

※定期会員は一般料金の10%割引(22日公演をのぞく)
※12月22日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティーコンサートです。定期会員の先行発売、割引はありません。

WEBチケットN響(手数料無料)

チケットのご予約はスマートフォンやPCから、
座席を選んで簡単にチケットが確保できる「WEBチケットN響」が便利です。



お問い合わせ:N響ガイド TEL (03) 5793-8161 NHK厚生文化事業団 TEL (03) 3476-5955 (22日公演のみ)

※ ユースチケットはN響ガイドにお電話でお申し込みください。感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)
※ 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※ N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
※ やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

※ チケットのご購入・ご来場の際には、N響ホームページに掲載の「感染症予防対策についてのご案内」を必ずお読みください。

各地の公演

1/9[月祝] 3:00pm | ニューイヤーコンサート NHK交響楽団 上田公演

サントミューゼ 大ホール

指揮:沼尻竜典 ソプラノ:砂川涼子* テノール:宮里直樹**
R. シュトラウス / 歌劇「カプリッチョ」―六重奏(弦楽合奏版)、歌劇「ばらの騎士」組曲
J. シュトラウス2世 / 喜歌劇「こもり」序曲、喜歌劇「ヴェネチアの一夜」作品411―「さあゴンドラにお乗り」**
レハール / 喜歌劇「ジュディッタ」―「私の唇は熱いキスをする」*
ヨーゼフ・シュトラウス / ワルツ「天体の音楽」作品235
レハール / 喜歌劇「ほほえみの国」―「きみはわが心のすべて」**
ジーツィンスキ / わが夢の街ウィーン*
J. シュトラウス2世 / ワルツ「美しく青きドナウ」作品314
レハール / 喜歌劇「メリー・ウイダー」―二重唱「とどした唇に」* **

主催:上田市(上田市交流文化芸術センター) / 上田市教育委員会 お問合せ:上田市交流文化芸術センター TEL (0268) 27-2000

1/28[土] 2:00pm | トウガン・ソヒエフ&NHK交響楽団 高崎公演

高崎芸術劇場 大劇場

指揮:トウガン・ソヒエフ ヴィオラ:アミハイ・グロス
バルトーク / ヴィオラ協奏曲(シェイ版)
ラヴェル / 「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番
ドビュッシー / 交響詩「海」

主催:高崎芸術劇場(公財)高崎財団 お問合せ:高崎芸術劇場 チケットセンター TEL (027) 321-3900

2/19[日] 3:00pm | NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)

愛知県芸術劇場 コンサートホール

指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ビョートル・アンデルシェフスキ*
ドヴォルザーク / 序曲「フス教徒」作品67
シマノフスキ / 交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」*
ブラームス / 交響曲 第4番 小短調 作品98

主催:愛知県芸術劇場 / NHK名古屋放送局 お問合せ:愛知県芸術劇場 TEL (052) 211-7552

2/25[土] 3:30pm | NHK交響楽団演奏会 宮崎公演

メディアキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) アイザックスターンホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:辻彩奈
メンデルスゾーン / 序曲「フィンガルの洞窟」作品26
ブルッフ / ヴァイオリン協奏曲 第1番 小短調 作品26
ベートーヴェン / 交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:NHK宮崎放送局 / NHK交響楽団 お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

2/26^日 5:00pm | NHK交響楽団演奏会 大分公演

iichiko総合文化センター iichiko グランシアタ

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK大分放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

2/27^月 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 熊本公演

熊本県立劇場 コンサートホール

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK熊本放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

3/7^火 7:00pm | 2023都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 54

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:梅田俊明 ピアノ:吉川隆弘

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37

ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

主催・お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

3/12^日 2:30pm | NHK交響楽団 厚木公演

厚木市文化会館 大ホール

指揮:ケリリン・ウィルソン ヴァイオリン:HIMARI

チャイコフスキー／イタリア奇想曲 作品45

パガニーニ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

プロコフィエフ／バレエ「ロメオとジュリエット」組曲 第2番

主催:(公財)厚木市文化振興財団 お問い合わせ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL (046) 224-9999

3/18^土 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 西宮公演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ ピアノ:小山実稚恵

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催:NHK神戸放送局／NHK交響楽団 お問い合わせ:NHK神戸放送局 TEL (078) 252-5000

3/19^日 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 和歌山公演

和歌山県民文化会館

出演者・曲目は3月18日と同じ

主催:NHK和歌山放送局／NHK交響楽団／和歌山県／(一財)和歌山県文化振興財団 お問い合わせ:NHK和歌山放送局 TEL (073) 424-8111

3/20(月) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 堺公演

フェニーチェ堺

出演者・曲目は3月18日と同じ

主催:NHK大阪放送局／NHK交響楽団／(公財)堺市文化振興財団 お問合せ:NHK大阪放送局 TEL (06) 6941-0431

3/21(火祝) 4:00pm

呉市制120周年記念事業 呉市文化振興財団設立40周年記念事業
呉信用金庫ホールネーミングライツパートナー記念事業
NHK交響楽団 呉公演2023

呉信用金庫ホール(呉市文化ホール)

出演者・曲目は3月18日と同じ

主催:(公財)呉市文化振興財団／呉市 お問合せ:呉信用金庫ホール TEL (0823) 25-7878

4/6(木) 3:00pm

東京・春・音楽祭2023 東京春祭ワグナー・シリーズ vol.14

4/9(日) 3:00pm

《ニュルンベルクのマイスタージンガー》(演奏会形式／字幕付)

東京文化会館 大ホール

指揮: マレク・ヤノフスキ ハンス・ザックス: エギルス・シリンス
ファイト・ボーグナー／夜警: アンドレアス・パウアー・カナバス クンツ・フォーゲルゲザンク: 木下紀章
コンラート・ナハティガル: 小林啓倫 ジクストゥス・ベックメッサー: アドリアン・エレート
フリッツ・コートナー: ヨーゼフ・ワグナー バルタザール・ツォルン: 大槻孝志 ウルリヒ・アイスリンガー: 下村将太
アウクスティン・モーザー: 高梨英次郎 ヘルマン・オルテル: 山田大智 ハンス・シュワルツ: 金子慧一
ハンス・フォルツ: 後藤春馬 ワルター・フォン・シュトルチング: デイヴィッド・バット・フィリップ
ダーヴィット: ダニエル・ペーレ エヴァ: ヨハンニ・フォン・オオストラム マグダレーネ: カトリン・ヴンドザム
合唱: 東京オペラシンガーズ

ワグナー／楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》(全3幕) (演奏会形式／字幕付)

主催: 東京・春・音楽祭実行委員会 共催: NHK交響楽団 お問合せ: 東京・春・音楽祭サポートデスク TEL (03) 6221-2016

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

1/8(日) 3:30pm

出演者・曲目は1月9日と同じ

3/11(土) 3:30pm

出演者・曲目は3月12日と同じ

主催・お問合せ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイージ
名誉音楽監督：シャルル・デュトワ
桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット
桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ
名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ
正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀
コンサートマスター：伊藤亮太郎
ゲスト・コンサートマスター：白井 圭
ゲスト・アシスタント・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

青木 調
宇根京子
大鹿由希
□倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
村尾隆人
○山岸 努
○横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大宮隆太郎
◎森田昌弘
木全利行
齋藤麻衣子
□嶋田慶子
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
侯野賢仁
○三又治彦
矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小野 聡
小島茂隆
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実穂
○西山健一
○藤村俊介
宮坂拡志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稲川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

◎青山聖樹
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司
和川聖也

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
黒川大亮

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ (株)アドバンストアールエフデザイン 代表取締役 田中 進	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役 佐々木経世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者 當麻隆昭
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 黄木紀之
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 山田哲生
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 浅田剛夫	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長 黄木紀之
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 森 俊哉	・ (株)ウイングツー 代表取締役 福田健二	・ (学)NHK学園 理事長 篠原朋子
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史		

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 根本拓也
- ・(一財)NHK サービスセンター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原 勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長 | 樫尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名誉会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(医)社团 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘信
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス
代表取締役社長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
取締役会長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫

- ・(株)セノン
代表取締役社長 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 白川 儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役社長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 稲垣精二
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 林田真由
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 社長執行役員
三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル東日本(株)
代表取締役社長 | 谷 誠
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポブリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・(株)TOKAIホールディングス
代表取締役社長 | 小栗勝男
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫

- ・(株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役社長 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイン(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 増田寛也

- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 船曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也

- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健
- ・(株)目の眼
代表 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- ・YK アクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

曲目解説執筆者

広瀬大介(ひろせ だいすけ)

音楽学者、音楽評論家。青山学院大学教授。日本リヒャルト・シュトラウス協会常務理事・事務局長。著書に『オペラ対訳×分析ハンドブック リヒャルト・シュトラウス／楽劇 サロメ』『もっときわめる! 1曲1冊シリーズ ワーグナー《トリスタンとイゾルデ》』『帝国のオペラ』など。各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、演奏会曲目解説・CDライナーノーツ、オペラ公演・映像の字幕・対訳等への寄稿多数。

星野宏美(ほしの ひろみ)

音楽学者。立教大学教授。専門は西洋音楽史、とくにメンデルスゾーンを中心とした19世紀音楽。著書に『メンデルスゾーンの宗教音楽——バッハ復活からオラトリオ《パウロ》と《エリヤ》へ』『メンデルスゾーンのスコットランド交

響曲』、楽譜の共同校訂にベーレンライター原典版の『メンデルスゾーン:ヴァイオリン・ソナタ集』、論文に『さまよえる《パウロ》——オラトリオ作曲家メンデルスゾーンの長い影』(『ワーグナー・ジュンボション 2020』)など。

堀 朋平(ほり ともへい)

国立音楽大学講師。博士(文学)。専門はシューベルトを中心とした19世紀音楽、音楽思想史。著書に『フランツ・シューベルト』の誕生——喪失と再生のオデュッセイ、訳書にヒンリヒセン著『フランツ・シューベルト——あるリアリストの音楽的肖像』、共訳書にボンズ著『ベートーヴェン症候群——音楽を自伝として聴く』など。住友生命いずみホール音楽アドバイザー。

(五十音順、敬称略)

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で

放送から1週間^{※2} 何度でも

お楽しみいただけます!



アプリで便利に!

※1 テレビでは放送し、番組配信のみ

※2 地域の一部の番組は放送2週間配信

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧くださいませ

※放送受信契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる!

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる!

聴き逃し

放送終了後1週間/聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちら

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi
Music Director Emeritus: Charles Dutoit
Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt
Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy
Honorary Conductor: Paavo Järvi
Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki
Concertmaster: Ryotaro Ito
Guest Concertmaster: Kei Shirai
Guest Assistant Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
Kyoko Une
Yuki Oshika
☐ Ryota Kuratomi
Ko Goto
Tamaki Kobayashi
Toshihiro Takai
Yuki Naoi
Yumiko Nakamura
Takao Furihata
☐ Hiroyuki Matsuda
Nana Miyagawa
Ryuto Murao
☐ Tsutomu Yamagishi
☐ Masamichi Yokoshima
☐ Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ☒ Rintaro Omiya
☒ Masahiro Morita
Toshiyuki Kimata
Maiko Saito
☐ Keiko Shimada
☐ Atsushi Shirai
☐ Akiko Tanaka
Kirara Tsuboi
Yosuke Niwa
Kazuhiko Hirano
Yoko Funaki
Kenji Matano
☐ Haruhiko Mimata
Masaya Yazu
Yoshikazu Yamada
Toshiro Yokoyama
Yuka Yoneda

Violas

- ☒ Ryo Sasaki

- ☒ Junichiro Murakami
☆ Shotaro Nakamura
Satoshi Ono
Shigetaka Obata
☐ Gentaro Sakaguchi
Mayumi Taniguchi
Hiroto Tobisawa
☐ Hironori Nakamura
Naoyuki Matsui
Rachel Yui Mikuni
Yuya Minorikawa
☐ Ryo Muramatsu
Yuji Yamada

Cellos

- ☒ Rei Tsujimoto
☒ Ryoichi Fujimori
Hiroya Ichi
Yukinori Kobatake
Masahide Sannohe
Miho Naka
☐ Ken'ichi Nishiyama
☐ Shunsuke Fujimura
Hiroshi Miyasaka
Yuki Murai
☐ Shunsuke Yamanouchi
Masako Watanabe

Contrabasses

- ☒ Shu Yoshida
☆ Masanori Ichikawa
☆ Shinji Nishiyama
Eiji Inagawa
☐ Jun Okamoto
Takashi Konno
Hiroaki Sagawa
Tatsuro Honma
Yoko Yanai

Flutes

- ☒ Masayuki Kai
☒ Hiroaki Kanda
Maho Kajikawa
Jun Sugawara
Junji Nakamura

Oboes

- ☒ Satoki Aoyama
☒ Yumi Yoshimura
Shoko Ikeda
Izumi Tsuboike
Hitoshi Wakui

Clarinets

- ☒ Kei Ito
☒ Kenji Matsumoto
Takashi Yamane
Seiya Wakawa

Bassoons

- ☒ Hironori Ugajin
☒ Kazusa Mizutani
Yuki Sato
Keiko Sugawara
Itaru Morita

Horns

- ☒ Hitoshi Imai
Naoki Ishiyama
Yasushi Katsumata
Hiroshi Kigawa
Kazuko Nomiyama

Trumpets

- ☒ Kazuaki Kukimoto

- ☒ Tomoyuki Hasegawa
Tomoki Ando
Eiji Yamamoto

Trombones

- ☒ Hikaru Koga
☒ Mikio Nitta
Ko Ikegami
Hiroyuki Kurogane
Takenori Yoshikawa

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- ☒ Toru Uematsu
☒ Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
Hidemi Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga
Daisuke Kurokawa

Librarian

- Akane Oki
Hideyo Kimura

(☒ Principal, ☆ Acting Principal, ☐ Vice Principal, ☐ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A

Concert No.1971

NHK Hall

December

3 (Sat) 6:00pm

4 (Sun) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi

mezzo soprano

Mihoko Fujimura

concertmaster

Ryotaro Ito

Richard Wagner

Wesendonck Lieder [21']

- I Der Engel
- II Stehe still!
- III Im Treibhaus
- IV Schmerzen
- V Träume

— intermission (20 minutes) —

Anton Bruckner

Symphony No. 2 C Minor

(First Version/ 1872) [68']

- I Allegro. Ziemlich schnell
- II Scherzo: Schnell – Trio: Gleiches Tempo
- III Adagio: Feierlich, etwas bewegt
- IV Finale: Mehr schnell

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Fabio Luisi, conductor



© Yusaku Miyazaki

Fabio Luisi hails from Genoa. He is the Principal Conductor of the Danish National Symphony Orchestra and the Music Director of the Dallas Symphony Orchestra. From September 2022, he assumed the position of Chief Conductor of the NHK Symphony Orchestra, Tokyo.

Fabio Luisi was Principal Conductor of the Metropolitan Opera in New York, General Music Director of the Opernhaus Zürich, Principal Conductor of the Wiener Symphoniker, as well as General Music Director of the Staatskapelle Dresden and the Sächsische Staatsoper, Artistic Director and Principal Conductor of the MDR Sinfonieorchester Leipzig, and Music Director of the Orchestre de la Suisse Romande. He is Music Director of the Festival della Valle d'Itria in Martina Franca (Apulia) and has appeared as guest conductor with numerous renowned ensembles, including the Philadelphia Orchestra, the Cleveland Orchestra, the Münchener Philharmoniker, the Filarmonica della Scala, the London Symphony Orchestra, the Concertgebouworkest, and the Saito Kinen Orchestra, as well as with

A

3 & 4. DEC. 2022

various prominent opera orchestras.

Important recordings include Verdi, Bellini, Schumann, Berlioz, Rachmaninov, Rimsky-Korsakov, Frank Martin, and Franz Schmidt, the largely forgotten Austrian composer. In addition, he has recorded various symphonic poems by Richard Strauss, and a lauded reading of Bruckner's Symphony No. 9 with the Staatskapelle Dresden. His recordings of Wagner's *Siegfried* and *Götterdämmerung* with the Metropolitan Opera Orchestra won Grammy awards.

Mihoko Fujimura, mezzo soprano



Mihoko Fujimura, one of the leading sopranos in Japan, boasts a beautiful and penetrating voice rich in expression and perfect vocalization, and is unrivaled especially in her repertoire of German operas including Wagnerian works. She was the first Japanese to sing a leading role at the Bayreuth Festival, debuting in 2002, since then, she has returned to Bayreuth for 9 consecutive years singing all of Wagner's

major mezzo-soprano roles, indeed a monumental achievement. She has sung at major opera houses including the Metropolitan Opera House in New York, La Scala, Milan, and the Wiener Staatsoper, in addition, as a most sought-after concert soloist, she has appeared in concerts of the world renowned orchestras including the Wiener Philharmoniker and the Berliner Philharmoniker on a regular basis, and has won trust from famed conductors such as late Claudio Abbado, Christian Thielemann, Simon Rattle and Andris Nelsons.

She studied at the Tokyo University of the Arts, its graduate school, and the University of Music and Performing Arts Munich. She received the 2002 Idemitsu Music Award, the 2003 Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology Art Encouragement Award for New Artists, the 2007 Exxon Mobil Music Award, the 2013 Suntory Music Award, and was honored with the Medal with Purple Ribbon in 2014.

[Mihoko Fujimura by Hiroko Kato, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Richard Wagner (1813–1883)

Wesendonck Lieder

Wesendonck Lieder (*Wesendonck Songs*) originated almost certainly from a forbidden love. These five songs for female voice and piano were composed by Wagner in 1857–1858 from poems by the wife of his patron, Mathilde Wesendonck with whom the composer is said to have an affair. During this period, he was also working on *Tristan and Isolde*, an epoch-making opera on a tragic story of forbidden love. The orchestrated version performed today was prepared by the Wagnerian conductor Felix Joseph Mottl in 1893.

The set opens tranquilly with *Der Engel* (*The Angel*) which tells about angels carrying a heart heavenward for deliverance when it bleeds in sorrow. The next *Stehe still!* (*Be still!*) pleads with wheel of time to stop whirling, then yearns for the taste of bliss in sweet oblivion. *Im*

Treibhaus (In the Greenhouse) lets the poet have pity upon foreign plants as “we share the same fate,” “although we are bathed in splendid light, our home is not here.” Subtitled “Study for *Tristan and Isolde*,” this song became a base for Prelude to Act 3 of the opera. In *Schmerzen (Pains)*, we hear a trumpet fanfare glorifying the Sun when “it awakens like a victorious hero.” But the pessimism prevails, stressing that “only pain brings about bliss.” *Träume (Dreams)* fades away in quietness as “the dreams bloom and then sink into their grave.” Another “Study for *Tristan*,” this song would be expanded into the love duet of Act 2 of the opera.

Anton Bruckner (1824–1896)

Symphony No. 2 C Minor (First Version/ 1872)

Radical chromatic harmony, large-scale orchestra and the feeling of endlessness are some of the trademarks of Wagner’s music. And the Austrian great symphonist Bruckner is one of those who were strongly influenced by this charisma. His quasi-religious worship was so deep that people around them, even Wagner himself, seemed to be perplexed. The two musicians first met in 1865 at the premiere of *Tristan and Isolde*. In 1873, Bruckner visited Wagner with his newly completed Symphony No. 2 and unfinished No. 3 in his hand, and No. 3 ended up being dedicated to the master.

Bruckner completed No. 2 in September 1872, but the premiere was canceled as performers judged it to be impossible to play. He revised it so the new version was publicly heard in 1873. Afterwards, he retouched it several times like he did with his other symphonies, whence comes his nickname “revision mania.” The 1872 first version was first recorded only in 1991 in the critical edition by William Carragan which the International Bruckner Society published in 2005.

Contrary to the general view of revision as an act of “improvement,” this first version is both precious and interesting because it was unperformed against Bruckner’s will and it reveals to us his intact initial conception of the work preceding numerous modifications made in response to comments from others. It is overall (especially the finale) much longer than the revised versions, defining more clearly the composer’s renowned spacious perspective and temporal sense. Its perfect example is the number of general pauses (where the whole orchestra is silenced momentarily) reduced in the later versions. This work’s byname “Symphony of Pauses” is therefore truer of the original. Moreover, compared to the revised ones, the first version has the reversed inner movements with the Scherzo coming before the slow movement as with Beethoven’s Ninth Symphony (1824). And just like this Ninth, Bruckner’s No. 2 begins with the strings’ tremolo (tremulous effect), which would since be his usual trick to open his symphonies. After the wild Scherzo and the ecstatically mellifluous Adagio, the awe-inspiring C-minor finale attains the confident, radiant C-major ending.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

A

3 & 4, DEC. 2022

PROGRAM

B

Concert No.1973

Suntory Hall

December

14(Wed) 7:00pm

15(Thu) 7:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 43

piano

Hisako Kawamura

concertmaster

Ryotaro Ito

Mikhail Glinka***Ruslan and Lyudmila*,
opera—Overture [5']****Sergei Rakhmaninov****Piano Concerto No. 2 C Minor
Op. 18 [34']**

I Moderato

II Adagio sostenuto

III Allegro scherzando

— intermission (20 minutes) —

Antonín Dvořák**Symphony No. 9 E Minor Op. 95,
From the New World [40']**

I Adagio—Allegro molto

II Largo

III Scherzo: Molto vivace

IV Allegro con fuoco

- All performance durations are approximate.

Artist Profile

Hisako Kawamura, piano



© Masao Origawa

Hisako Kawamura performs over a wide range of genres as soloist in recitals and concerts and also in chamber music concerts in Europe, especially in Germany, where she is based, and in Japan. In 2019, which marked the 15th anniversary of her debut, she unrolled a recital series titled *Beethoven Piano Sonata Project* and released three albums.

She played piano for the lead character, Aya Eiden, in the movie *Listen to the Universe* (Japanese title *Mitsubachi to Enrai*) depicting an international piano competition, and made headlines. In 2022, she focused on Schubert's late sonatas, thus continuing her efforts to delve deeper into the subjects of her interest. As a concert soloist, she has worked with many renowned orchestras including the Wiener Philharmoniker, the Moscow Virtuosi Chamber Orchestra, the City of Birmingham Symphony Orchestra, the Czech Philharmonic and

the Hungarian National Philharmonic Orchestra. This is her sixth collaboration with the NHK Symphony Orchestra since her first appearance in 2010. She came under the international limelight after winning the 2nd prize in the 2006 ARD International Music Competition in Munich and the 1st prize at the 2007 Clara Haskil International Piano Competition. Among numerous awards she has received are the Idemitsu Music Award, the Chopin Society Award in Japan and the 51st Suntory Music Award. She has also injected efforts in teaching young artists as a professor at the Folkwang University of the Arts and a specially appointed lecturer at the Tokyo College of Music.

[Hisako Kawamura by Arisa Iida, music facilitator]

Program Notes | Kumiko Nishi

Mikhail Glinka (1804–1857)

***Ruslan and Lyudmila*, opera—Overture**

Fascinated by folk melodies of his homeland, Glinka blazed the trail of the distinct Russian style in classical music previous to younger compatriots including Mussorgsky (1839–1881) and Rimsky-Korsakov (1844–1908).

Ruslan and Lyudmila (1842) is based on the poem of the identical title by Aleksandr Pushkin. Set in Kiev (Kyiv) during medieval times, this fairy-tale opera starts with the wedding feast for Ruslan, knight, and Lyudmila, daughter of the Grand Prince. The festivity takes a sudden turn when the sorcerer Chernomor abducts the bride. As the Grand Prince promises that whoever can rescue Lyudmila will be given her hand, Ruslan and his rivals go on a journey to find her.

The overture is Glinka's best-known orchestral piece. After the brief introduction, strings sing at speed the festive main theme derived from the opera's finale where all celebrate the united title roles. Towards the conclusion, we hear bassoons and trombones reciting the odd, descending whole-tone scale—a rare example of its use well before Debussy—which is associated with the evil, magical Chernomor. Overall, this buoyant curtain-raiser already foretells the opera's happy ending.

Sergei Rakhmaninov (1873–1943)

Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18

Rakhmaninov lived a stormy life. After leaving his beloved native land following the 1917 Russian Revolution, he spent the rest of his days in exile and passed away in the USA.

A key work of his pre-exile period, Piano Concerto No. 2 was composed in 1900–1901. Its successful first performance was for him the exit of the long tunnel, for he had suffered from deep depression and writer's block since the fiasco of the 1897 premiere of his Symphony No. 1. He dedicated the Concerto to the physician and hypnotist Nikolai Dahl who treated him to restore his confidence.

The Concerto is a typical example of Rakhmaninov's profoundly Romantic style. It is

B

14 & 15, DEC. 2022

known as a tremendously difficult piece for pianists, as the composer wrote it for himself who was a top piano virtuoso with phenomenally large hands.

The opening movement is in sonata form. Piano solo prefaces it with a solemn eight bars showing how deeply Russian church bells engraved in Rakhmaninov's mind. Then strings state the first weighty, wavy theme in the home key. The E-flat-major second theme introduced by piano is a tenderer and more lyrical nature. The middle movement has also a brief preamble followed by A-B-A form. Flute and then clarinet give the mellifluous main tune for the A section. As if breaking a stillness, the next movement begins with a march-like brilliant introduction. In this finale, two opposed moods alternate due to two main elements recurring: the effervescent first theme with staccato is launched immediately by piano, and later the placid second theme appears on oboe and violas before being sung by piano with a resounding voice. The Concerto heads toward an exultant C-major conclusion.

Antonín Dvořák (1841–1904)

Symphony No. 9 E Minor Op. 95, *From the New World*

Immersed in native Bohemian folklore, Dvořák developed Czech school in classical music; moreover, three years he spent in the New Continent were to lend an individual but friendly allure to his already matured style. The reason behind it was an appointment as the director of the new National Conservatory of Music in New York City. He led a stimulating life there discovering African American music, Native American culture and the country's majestic nature. And new experiences encouraged him to pen the Ninth Symphony.

Since its 1893 premiere in New York, the Ninth has been a favorite of favorites with concertgoers around the world. One of the factors contributing to such popularity may be its abundance of inventive melodies. On this point, the composer utilizes pentatonic (five-note) scales and syncopated (displacement of accents) rhythms which are common features of different kinds of folk tunes.

The Ninth is in four movements. After a slow proem, horns instantly give the opening movement's first theme like a fanfare. This running-up syncopated motif will recur in three other movements as a unifying element. The bucolic second theme (G minor) first stated by winds famously lacks its leading note (F-natural instead of F-sharp) evoking a folk dance. Also, the third main melody (G major) first sung by flute solo is said to be the unconscious reminiscent of the renowned African American spiritual song *Swing Low, Sweet Chariot*. As for the slow movement, the composer admitted that he was inspired by a funeral scene from *The Song of Hiawatha*, Longfellow's epic poem about Native American characters. Dvořák's original nostalgic melody played as an English horn solo was so widespread that, after his death, it became the spiritual-style song *Goin' Home*. The Scherzo movement is, according to Dvořák, related to a dance scene from, again, *The Song of Hiawatha*. The last sonata movement has the brave march-like first theme announced by horns and trumpets, and the gentler second theme revealed by a clarinet. This enthusiastic finale reaches an atypical ending, as the last chord gradually decreases the volume as though the composer's thoughts went to a faraway place.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 45

PROGRAM

C

Concert No.1972

NHK Hall

December

9 (Fri) 7:30pm

10 (Sat) 2:00pm

conductor

Fabio Luisi | for a profile of Fabio Luisi, see p. 43

concertmaster

Fuminori Maro Shinozaki

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 9th from 6:45pm / Saturday 10th from 1:15pm

Takao Furihata (vn.), Yosuke Niwa (vn.), Gentaro Sakaguchi (va.), Yuki Murai (vc.)

Beethoven / String Quartet No. 3 D Major Op. 18-3—1st Movement

* You may enter and leave as you please during the performance. * Enjoy chamber music from your own seat.

Wolfgang Amadeus Mozart
Symphony No. 36 C Major K. 425,
***Linz* [26']**

- I Adagio—Allegro spiritoso
 II Andante
 III Menuetto—Trio
 IV Presto

Felix Mendelssohn Bartholdy
Symphony No. 3 A Minor Op. 56,
***Scottish* [40']**

- I Andante con moto
 —Allegro un poco agitato
 II Vivace non troppo
 III Adagio
 IV Allegro vivacissimo

- This concert will be performed with no intermission.
 - All performance durations are approximate.

Program Notes | Kumiko Nishi

Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)
Symphony No. 36 C Major K. 425, *Linz*

“Haste makes waste” meant nothing to Mozart’s Symphony No. 36 thrown together within only about four days. It is a product from his prosperous Viennese period. In 1783, the composer visited his hometown of Salzburg with his new bride. The newlyweds then returned to Vienna, making a stopover in Linz (arrival on October 30th) where they knew a concert would take place on November 4th. Mozart promptly began writing a new symphony for it and met the deadline, miraculously.

C

9 & 10. DEC. 2022

Despite the tremendous velocity of the composition, No. 36 is surprisingly sophisticated and innovative. Indeed, it is the first symphony Mozart wrote an introduction for. At the beginning of the main section of the opening sonata movement, violins give the first theme consisting of two whole notes followed by a few frisky short notes. The graceful slow movement in 6/8 meter with dotted rhythm evokes the siciliano, an Italian rustic dance. The next movement is a courtly minuet dance having a rural trio (central) section for oboe and bassoon. The last sonata movement is breathtaking. At a great rate, the light-hearted first theme introduced softly by strings and the fluent second theme urge this sparkling finale towards the end suggesting to us a happy denouement of the composer's operas.

Felix Mendelssohn Bartholdy (1809–1847)

Symphony No. 3 A Minor Op. 56, *Scottish*

As with *The Linz* Symphony, *The Scottish* of Mendelssohn was also a child of travel, but the gestation took over ten years since the conception. It is rare for the German composer known to be a rapid writer. The story goes back to the spring of 1829 when he, then twenty years old, set off on his first visit to England. He was welcomed by Londoners as a composer, conductor and soloist giving piano concerts and conducting his own orchestral works, after which he enjoyed his summer vacation touring Scotland.

Having a gift for painting, he sketched diversified scenery in his journal during this journey. Scotland's nature stimulated his musical talent too, so he would compose the concert overture *The Hebrides* soon in 1830. During the trip, he wrote to his family enclosing the opening bars of "my Scottish Symphony" (his own words) he conceived while visiting the Holyrood Palace in Edinburgh where Queen Mary lived. According to the letter, the ruins of the chapel beside it inspired the young man, and this musical embryo would give its first cry in 1842 as the introduction of his Scottish Symphony, the last work he completed in the genre. It was premiered the same year in Leipzig and dedicated to Queen Victoria of Great Britain and Ireland.

All the four movements are in sonata form and are continuously performed without pause. The pensive melody heard during the overcast introduction is associated with several important elements of the whole symphony (such as the first themes of the opening and second movements, the second theme of the final movement), which was progressive at the time. The first theme of the scherzo-like second movement particularly deserves special attention, as this merry tune sung by the clarinet is written in a pentatonic (five-note) scale with lively dotted rhythm reminding us of Scottish folksongs. The intense final movement in 4/4 meter has an unexpected A-major coda in 6/8 with the new melodic idea which is also derived from the introduction's theme. That's how the composer rounds off the organic structure of this masterly symphony.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 45

The Subscription Concerts Program 2022–23

2022 12	A	Concert No. 1971	December 3 (Sat) 6:00pm 4 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Wagner <i>Wesendonck Lieder</i> Bruckner Symphony No. 2 C Minor (First Version / 1872) Fabio Luisi, conductor Mihoko Fujimura, mezzo soprano	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
		Concert No. 1973	December 14 (Wed) 7:00pm 15 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Glinka <i>Ruslan and Lyudmila</i> , opera – Overture Rakhmaninov Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18 Dvořák Symphony No. 9 E Minor Op. 95, <i>From the New World</i> Fabio Luisi, conductor Hisako Kawamura, piano	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
		Concert No. 1972	December 9 (Fri) 7:30pm 10 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Mozart Symphony No. 36 C Major K. 425, <i>Linz</i> Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, <i>Scottish</i> Fabio Luisi, conductor	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
	A	Concert No. 1974	January 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83 Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60 Tugan Sokhiev, conductor Haochen Zhang, piano	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
		Concert No. 1976	January 25 (Wed) 7:00pm 26 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Bartók Viola Concerto (Serly version) Ravel <i>Daphnis et Chloé</i> , suite Nos. 1 & 2 Debussy <i>La mer</i> , three symphonic sketches Tugan Sokhiev, conductor Amihai Grosz, viola	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500
		Concert No. 1975	January 20 (Fri) 7:30pm 21 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Rakhmaninov <i>The Rock</i> , fantasy, Op. 7 Tchaikovsky Symphony No. 1 G Minor Op. 13, <i>Winter Dreams</i> Tugan Sokhiev, conductor	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
	A	Concert No. 1977	February 4 (Sat) 6:00pm 5 (Sun) 2:00pm NHK Hall	Hisatada Otaka Cello Concerto A Minor Op. 20 Panufnik <i>Katyń Epitaph</i> Lutosławski Concerto for Orchestra Tadaaki Otaka, conductor Dai Miyata, cello	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
		Concert No. 1979	February 15 (Wed) 7:00pm 16 (Thu) 7:00pm Suntory Hall	Dvořák <i>Hussite Overture</i> , Op. 67 Szymanowski Symphony No. 4 Op. 60, <i>Symphonie concertante</i> * Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98 Jakub Hruša, conductor Piotr Anderszewski, piano* Sun. 19 February The Subscription Concert Series in Aichi Prefectural Art Theater	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500
		Concert No. 1978	February 10 (Fri) 7:30pm 11 (Sat) 2:00pm NHK Hall	Bernstein Symphonic Dances from <i>West Side Story</i> Rakhmaninov Symphonic Dances Op. 45 Jakub Hruša, conductor	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
- Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

		A NHK Hall		B Suntory Hall		C NHK Hall	
		Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm) Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)		Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm) Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)		Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm) Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)	
2023 04	A	Concert No. 1980	R. Strauss Symphonic Fragments from <i>Josephs Legende</i> R. Strauss <i>An Alpine Symphony</i> Op. 64	Ordinary	Youth		
		April		S 9,800	S 4,500		
		15 (Sat) 6:00pm 16 (Sun) 2:00pm		A 8,400	A 4,000		
2023 05	B	Concert No. 1982	Sibelius Symphony No. 4 A Minor Op. 63 Rakhmaninov Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43* Tchaikovsky <i>Francesca da Rimini</i> , Symphonic fantasy after Dante, Op. 32	Ordinary	Youth		
		April		S 9,800	S 4,500		
		26 (Wed) 7:00pm 27 (Thu) 7:00pm		A 8,400	A 4,000		
2023 06	C	Concert No. 1981	Roussel Sinfonietta for String Orchestra Op. 52 Poulenc Sinfonietta Ibert Divertissement for Chamber Orchestra	Ordinary	Youth		
		April		S 7,400	S 3,500		
		21 (Fri) 7:30pm 22 (Sat) 2:00pm		A 6,500	A 3,000		
2023 06	A	Concert No. 1983	Rakhmaninov Songs Op. 34 – <i>The Raising of Lazarus</i> (arr. Shimono), <i>Vocalise</i> Gubaidulina <i>Offertorium</i> * Dvořák Symphony No. 7 D Minor Op. 70	Ordinary	Youth		
		May		S 8,900	S 4,000		
		13 (Sat) 6:00pm 14 (Sun) 2:00pm		A 7,400	A 3,500		
2023 06	B	Concert No. 1985	Haydn Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, <i>The Bear</i> Mozart Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447 Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>	Ordinary	Youth		
		May		S 9,800	S 4,500		
		24 (Wed) 7:00pm 25 (Thu) 7:00pm		A 8,400	A 4,000		
2023 06	C	Concert No. 1984	Saint-Saëns Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, <i>The Egyptian</i> Franck Symphony D Minor	Ordinary	Youth		
		May		S 7,400	S 3,500		
		19 (Fri) 7:30pm 20 (Sat) 2:00pm		A 6,500	A 3,000		
2023 06	A	Concert No. 1986	Prokofiev <i>The Love for Three Oranges</i> Op. 33bis, symphonic suite Prokofiev Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16 Casella Symphonic Fragments from <i>La donna serpente</i> [Japan Première]	Ordinary	Youth		
		June		S 8,900	S 4,000		
		10 (Sat) 6:00pm 11 (Sun) 2:00pm		A 7,400	A 3,500		
2023 06	B	Concert No. 1988	Bach / Respighi <i>Three Chorales</i> Respighi <i>Concerto gregoriano</i> * Rakhmaninov Symphony No. 1 D Minor Op. 13	Ordinary	Youth		
		June		S 8,900	S 4,000		
		21 (Wed) 7:00pm 22 (Thu) 7:00pm		A 7,400	A 3,500		
2023 06	C	Concert No. 1987	Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65	Ordinary	Youth		
		June		S 7,400	S 3,500		
		16 (Fri) 7:30pm 17 (Sat) 2:00pm		A 6,500	A 3,000		

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

(consumption tax included)

ともに創る未来へ。－Challenge SEITOKU－

かけがえのない学生時代、思いきり成長したい。

培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。

その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。

自由で、多様で、限らない、学びの世界で学問しよう。

いまの自分を超越る挑戦で、新しい価値を創る力を。

「新しい価値を創造する」学際的なプログラム

Field Linkage (フィールドリンケージ)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムが始動。
多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を
育みます。

新時代に活きるリーダーシップを備え、新しい価値を創造し提案できる女性へ

Business Field Linkage (ビジネスフィールドリンケージ)

高度な専門性を実社会で活かすために、ビジネスの最前線やDX・AIの活用を
実践的に学ぶプログラムが本格始動。
先見的な視点とスキル、協働的リーダーシップを発揮し、課題解決へと導く、
新時代の女性リーダーを育成します。

2021・2022 実就職率 全国女子大学ランキング



(97.4% 2022年3月卒業生)
※卒業生500人以上の女子大実就職率
2022年大学通信調べ



自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

聖徳大学

聖徳大学短期大学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111 (大代表)
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学
音楽学部 (女子)

聖徳大学大学院
音楽文化研究科
[博士前期・後期課程] (共学)

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校
光英VERITAS高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英VERITAS中学校
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)

重要文化財 灰釉芦體文三耳壺(拡大)
渥美窯 平安時代末期(12世紀)
愛知県陶磁美術館蔵
松永耳庵旧蔵(財)松永記念館寄贈

12月号

渥美と常滑

土に還る窯、今を生きる窯

連載 潮田洋一郎 近衛忠大 茂木健一郎 ほか

雪舟 兔図

東京国立博物館蔵

出典: Colbase (<https://colbase.nich.go.jp>)

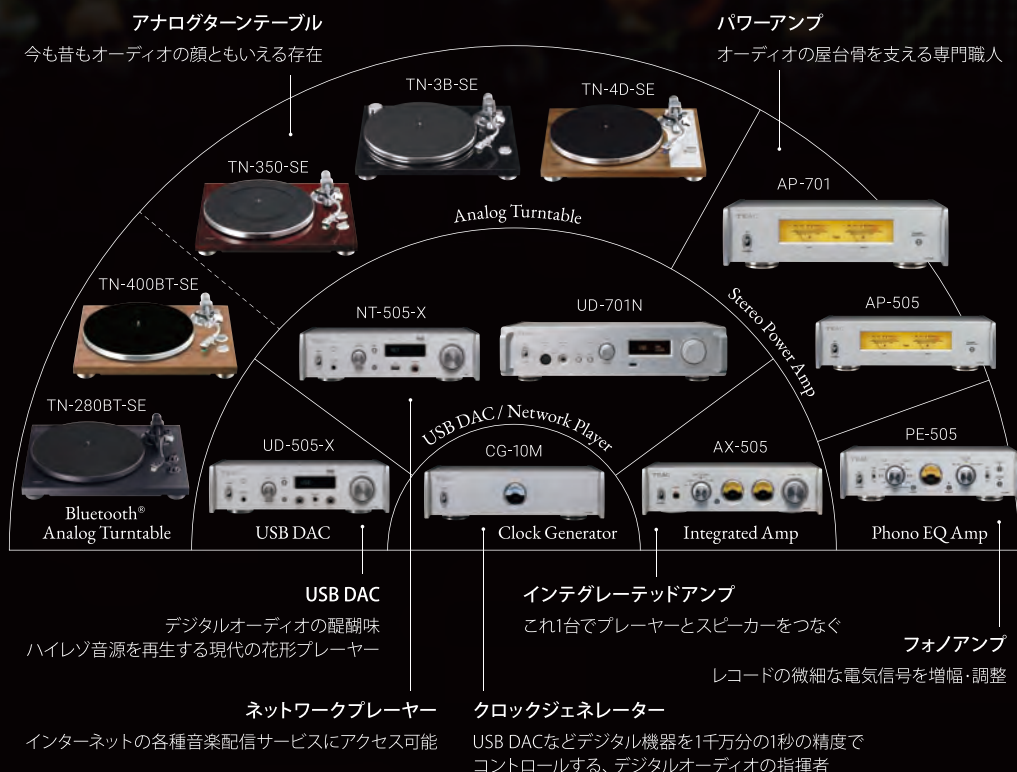
1月号|12月15日発売
特集 うさぎの文様

「目の眼」最新号 WEB 無料公開中

menomeonline.com



ティアックは、音楽を愛する人の為に、
これからも、こだわりぬいた製品を
お届けしていきます。



TEAC

ティアックは1953年創業の日本のオーディオブランドです。

東京春祭
ワーグナー・シリーズ vol.14

《ニュルンベルクの マイスタージンガー》

(演奏会形式／字幕付)

指揮 マレク・ヤノフスキ

©Felix Broede

東京
春祭
TOKYO OPERA NOMORI

東京・春・音楽祭 2023
SPRING FESTIVAL IN TOKYO 2023

4.6^木 | 4.9^日

15:00 開演 全3幕 上演時間：約5時間30分
(休憩2回含む)

東京文化会館 大ホール

チケット発売中

Ticket

S ¥26,000 A ¥21,500 B ¥17,500 C ¥14,000

D ¥11,000 E ¥8,000 U-25 ¥3,000

U-25は2月16日(木)12:00 発売 (※東京・春・音楽祭公式サイトのみで取扱い)

ハンス・ザックス	エギルス・シリンス
ボークナー／夜警	アンドレアス・パウアー・カナバス
フォーゲルゲザング	木下紀章
ナハティガル	小林啓倫
バックメッサー	アドリアン・エレート
コートナー	ヨーゼフ・ワーグナー
ツオルン	大槻孝志
アイスリンガー	下村将太
モーザー	高梨英次郎
オルテル	山田大智
シュヴァルツ	金子慧一
フォルツ	後藤春馬
ヴァルター	デイヴィッド・バット・フィリップ
ダフィット	ダニエル・ペーレ
エファ	ヨハンニ・フォン・オオストラム
マグダレーネ	カトリン・ヴンドザム

管弦楽
合唱
合唱指揮
音楽コーチ

NHK 交響楽団
東京オペラシンガーズ
エベルハルト・フリードリヒ
西口彰浩
トーマス・ラウスマン

主催：東京・春・音楽祭実行委員会 共催：NHK交響楽団 後援：ドイツ連邦共和国大使館／日本ワーグナー協会

【チケットの申込み】



東京・春・音楽祭
オンライン・チケットサービス

<https://www.tokyo-harusai.com/>

(座席選択可・登録無料)



東京文化会館チケットサービス
03-5685-0650



N響ガイド
03-5793-8161

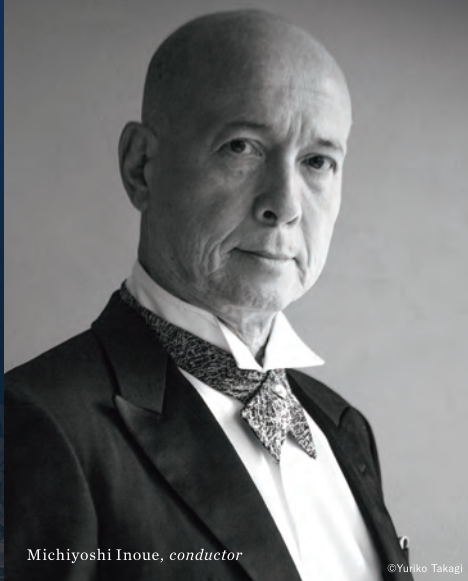
お問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク 03-6221-2016 (営業時間：月・水・金 10:00-15:00)

かんぽ生命 presents

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 第九

Special Concert



Michiyoshi Inoue, conductor

©Yuriko Takagi

2022年12月27日(火) 7:00pm
サントリーホール

Tuesday, December 27, 2022 Suntory Hall

指揮: 井上道義

ソプラノ: クリステイーナ・ランツハマー

メゾ・ソプラノ: 藤村実穂子

テノール: ベンヤミン・ブルンス

バス: マシュー・ローズ

合唱: 国立劇場合唱団、東京オペラシンガーズ
New National Theatre Chorus/ Tokyo Opera Singers, choruses



Christina Landshamer,
soprano



Mihoko Fujimura,
mezzo soprano



Benjamin Bruns,
tenor



Matthew Rose,
bass

Program

ダカン／ノエル集 作品2－第10曲「グランジュとデュオ」ト長調
Daquin *Nouveau Livre de Noël* for Organ Op. 2
—X. *Grand Jeu et Duo* G Major

ラインケン／フーガ ト短調
Reincken *Fugue G Minor*

バッハ／前奏曲とフーガ ハ長調 BWV545
Bach *Prelude and Fugue C Major BWV545*

オルガン: 勝山 雅世 Masayo Katsuyama, organ

ベートーヴェン

交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

Beethoven *Symphony No. 9 D Minor Op. 125, Choral*

料金(税込)	S ¥17,500	A ¥14,500	B ¥11,500	C ¥8,000
ユースチケット (25歳以下)	S ¥8,750	A ¥7,250	B ¥5,750	C ¥4,000

発売開始 10月10日(月・祝) 11:00am
N響定期会員先行発売 10月5日(水) 11:00am
[定期会員は一般料金から10%割引]

お問い合わせ: N響ガイド 03-5793-8161
(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

進化するめくもり。

主催: NHK交響楽団
特別協賛:
株式会社かんぽ生命保険



かんぽ生命

NHK交響楽団「ベートーヴェン」第9「演奏会」 ベートーヴェン／交響曲第9番「短調」作品125「合唱つき」

Beethoven Symphony

No. 9 D Minor Op.125, Choral

Michiyoshi Inoue, conductor

Christina Landshamer, soprano

Mihoko Fujimura, mezzo soprano

Benjamin Bruns, tenor

Matthew Rose, bass

New National Theatre Chorus, chorus

Tokyo Opera Singers, chorus

主催：NHK／NHK交響楽団

主催(22日)：NHK／NHK厚生文化事業団

協賛：みずほ証券株式会社／はごろもアース株式会社／

JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社／株式会社明電舎

第9響

Beethoven
9th Symphony
Concert



指揮◎井上道義

ソプラノ◎クリスティーナランツハマー

メゾソプラノ◎藤村実穂子

テノール◎ベンヤミンブルンス

バス◎マシューローズ

合唱◎新国立劇場合唱団 東京オペラシンガーズ

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

2022年

12/21 水 7:00pm

12/22 木 7:00pm*

12/24 土 2:00pm

12/25 日 2:00pm

NHKホール

*12月22日はNHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです

発売開始：10月10日(月祝) 11:00am

N響定期会員先行発売(22日公演をのぞく)：10月5日(水) 11:00am

[定期会員は一般料金から10%割引、22日公演をのぞく]

料金(税込)	
一般	ユースチケット(25歳以下)
S ¥15,000	S ¥7,500
A ¥12,000	A ¥6,000
B ¥9,000	B ¥4,500
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥4,500	D ¥2,250

前売所

- ・WEBチケットN響 <https://ticket.nhkso.or.jp/>
- ・N響ガイド 03-5793-8161
- ・チケットぴあ pia.jp/t/nhkso/
- ・e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso/
- ・ローソンチケット l-tike.com/nhkso/

※ ユースチケットはN響ガイドに電話でお申し込みください。

感染症予防対策のため、事前に年齢確認のための登録手続きが必要になります(N響ホームページをご覧ください)

※ 定期会員割引・先行発売はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります

※ 車いす席をご希望の方は、N響ガイド(22日公演のみNHK厚生文化事業団)へお問い合わせください

お問い合わせ

・N響ガイド：03-5793-8161(営業日・営業時間はN響ホームページでご確認ください)

・NHK厚生文化事業団：03-3476-5955(22日公演のみ、平日10:00am～6:00pm)

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・^{マルイガス}Maruigasの全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1^{*}

※国内における販売シェア（ただし、水素はオンサイト・バイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ）

Iwatani
岩谷産業株式会社